

令和5年度

ヨコハマ市民まち普請事業

# 2次コンテスト 整備提案集

日時：令和6年1月28日(日) 10:30~16:40  
会場：横浜市役所アトリウム

最大  
500万円  
助成

私たちのまちを私たちでつくる

きっとまちが好きになる



YouTubeチャンネル「ヨコハマ市民まち普請事業」からライブ配信

視聴は  
こちらから



主催 横浜市都市整備局 地域まちづくり課  
横浜市住宅供給公社  
認定 NPO 法人 市民セクターよこはま

## ■目次■

1. ヨコハマ市民まち普請事業とは	1
2. ヨコハマ市民まち普請事業部会委員名簿、委員紹介	2
3. 令和5年度のスケジュール	7
4. 令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト	
(1) 2次コンテストプログラム	8
(2) 2次コンテスト審査基準	9
(3) 2次コンテストの投票方法・選考方法	10
(4) 2次コンテスト審査基準別一覧表(参考)	11
5. 2次コンテスト提案一覧	12
(1) HOMMOKU もくりプロジェクト実行委員会	13
(2) ブルーベリーの丘を考える会	28
(3) 弘明寺リビングラボ	45
(4) えだきん×夢叶きゃらばん	66
6. 参考資料	
(1) ヨコハマ市民まち普請事業整備助成対象一覧(年別)	78

# 1. ヨコハマ市民まち普請事業とは

「ヨコハマ市民まち普請事業」では、市民のみなさんが主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設（ハード）整備を伴うまちづくりに対して横浜市が支援・助成を行うことで、地域に合ったまちづくりが実現することを目指しています。

市民のみなさんによるアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、整備への労力提供や整備後の施設の維持管理、活用・運営などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広まることで、横浜の魅力を一層向上させていくことを目的としています。今年度から「子育てプラス」として、次世代を共に育む地域づくりの推進のため、選考件数や支援体制を拡充しています！

※地域まちづくり・・・身近な地域の魅力づくりや課題解決に向けた取組のことです。

※まち普請・・・ 「普請（ふしん）」は「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。  
「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足度を高めることにつながっていきます。  
「まち普請」には、市民のみなさんに身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

## <支援内容>

### ● 1次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 30万円を限度に活動助成金を交付します。  
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 活動助成金の対象は、主にまちづくりコーディネーター（まちづくりの専門家）等など技術面での協力者への謝金や用紙等事務用品費、印刷費等です。
- 提案内容の整理等をアドバイスしてくれるまちづくりの専門家を紹介します。
- 2次コンテストに向けて提案の実現性を高めるため、提案内容の整理や関係機関との協議・調整などを地域まちづくり課職員が支援します。

### ● 2次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 50万～500万円を限度に整備助成金を交付します。  
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 対象経費は、設計費、工事費、工事監理費、活動経費です。
- 整備内容の整理や関係機関との協議・調整などを、整備が完了するまで地域まちづくり課職員が支援します。

## 2. 審査員名簿

### (ヨコハマ市民まち普請事業部会 委員名簿)

	氏 名	現 職
審査員長 (部会長)	すぎさき かずひさ 杉崎 和久	法政大学法学部教授 (都市計画、まちづくり)
審査員 (部会委員)	あさひな ゆり 朝比奈 ゆり	東京ボランティア・市民活動センター専門員 (市民活動支援、みどり環境)
	うえまつ まみこ 植松 満美子	松ヶ丘自治会会長 (まちづくり、市民活動)
	かわはら すすむ 川原 晋	東京都立大学都市環境学部教授 (市民事業、観光まちづくり、都市デザイン)
	ごとう ちかこ 後藤 智香子	東京都市大学環境学部准教授 (まちづくり、住環境、こども環境)
	ひご きみこ 肥後 貴美子	市民委員 (公募)
	まつむら まさはる 松村 正治	NPO 法人よこはま里山研究所理事長 (市民協働、環境社会学)
	やまだ あきこ 山田 顕子	市民委員 (公募)

(五十音順、敬称略)



●杉崎 和久 (すぎさき かずひさ)  
法政大学法学部／大学院公共政策研究科教授

東京理科大学理工学部建築学科、同大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程単位取得退学。(財)練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター専門研究員、(財)京都市景観・まちづくりセンターまちづくりコーディネーターを経て、現職。

学生のときから、商店街のまちづくりのお手伝いをしたり、まちづくりNPOに参加していました。このときには、まち普請事業と同じような公募型助成金の申請書を書くこともありました(勝率低かったですが)。

大学院を出てからは、東京都練馬区や京都市でまちづくり活動を応援する仕事をし、その中で公募型助成金の事務局として、制度設計や運営、応募される団体からの相談を受けていました。

現在でも、まち普請事業をはじめとして、市民のみなさんの思いが形になっていく、その過程でご縁が広がっていく取組に関心を持ち、お手伝いをしています。



●朝比奈 ゆり (あさひな ゆり)  
東京ボランティア・市民活動センター専門員

私のまちづくりとの関わりは公園づくりからです。地域の方が自分の居場所と思えるような公園をつくろうと設計者として計画段階から地域の人たちと一緒に考えたり、手作り工事に汗を流す機会を大事にしてきました。その経験から、地域に住んでいるからこそその問題意識や夢を持った

人たちがまちづくりに参加することの可能性を実感し、その後は世田谷区のまちづくりセンター(当時)職員として地域のみなさんの活動を応援し、地域の様々な人をつないでまちづくりを推進する仕事に携わりました。現在は千葉外房の里山でのんびり?と暮らしています。東京ボランティア・市民活動センター専門員のほか、武蔵野美術大学通信教育課程社会形成デザイン講師を務めています。



●植松 満美子（うえまつ まみこ）  
松ヶ丘自治会会長

青少年指導員、主任児童委員を務め、子ども達や学校、子育て支援などに関わる様々な地域活動に携わってきました。私の住む松ヶ丘地区は、横浜駅にほど近い丘陵地。国道1号線から一步入ると急な坂道や細い道が多く、通学、通勤、買い物に行くのにも坂の上り下りは欠かせません。また、指定されている地域防災拠点や広域避難場所への避難も、高齢の方や障害をお持ちの方には難しいことと、東日本大震災を経て痛感させられました。そこで自治会では、いっとき避難場所として自治会館の活用に思い至り、防災機能と備蓄品の充実を図るため自治会館内に防災備蓄庫を設置することを決定。これを「まち普請事業」の助成を得て平成25年度、完成させることが出来ました。私はこの活動に深く関わる機会を得て、その後自治会内に立ち上げた「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」の活動を通して、「松ヶ丘まちづくりプラン」の策定に努め、松ヶ丘町内の防災面の強化に関わってきました。現在、松ヶ丘自治会会長を務める傍ら、地区連合自治会、地域防災拠点の運営委員会とも連携しながら、住み心地のよい地域づくりに普請しています。



●川原 晋（かわはら すすむ）  
東京都立大学都市環境学部教授

専門は観光まちづくり、都市・地域デザイン。観光地再生、まちづくり市民事業、市民参加まちづくり、公民連携による公共空間活用などの理論と実践に取り組んでいます。

前職では、都市計画コンサルタントや建築設計者として、横浜市や区の都市計画マスタープランや市民利用施設の検討ワークショップ等の業務や、福祉施設等の設計に携わりました。

藤沢市都市景観アドバイザー、八王子市景観審議会委員、横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会委員（横浜・人・まち・デザイン賞）、地元小学校のPTA会長などを経験。趣味はガーデニング。



●後藤 智香子 (ごとう ちかこ)  
東京都市大学環境学部環境創生学科  
都市環境分野准教授

東京理科大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了、同専攻博士課程修了・博士（工学）。柏の葉アーバンデザインセンターディレクター、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任助教、同大学先端科学技術研究センター特任講師などを経て2023年より現職。

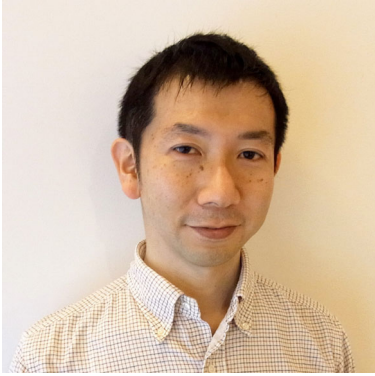
学生時代から、住民主体による私有地を活用したまちづくりやそれを支える制度について研究をしてきました。具体的には、世田谷区の地域共生のいえづくり支援事業制度などについて研究をし、またそのご縁で地域共生のいえの一つ、「岡さんのいえ TOMO」の運営に10年以上携わっています。また最近は、こども環境についても都市計画・まちづくりの観点から研究を進めており、特に保育園（こども施設）と地域との空間的・社会的な関わりについて研究しています。



●肥後 貴美子 (ひご きみこ)  
ヨコハマ市民まち普請事業部会市民委員

武蔵野美術大学卒、グラフィックデザイナー。30歳を目前に「エコツーリズム」と出会ったことから、環境に携わる分野に邁進。日本各地・フィジー諸島でのエコツーリズム開発やビジターセンター等の展示施設に関わりながら、自然やその土地の文化、そこに生きる人の魅力を伝えることに努めています。

東日本大震災後、自ら住む地域について何も知らないことを猛省し、地域でのエネルギーやコミュニティを考え、実践する市民活動を開始しました。コミュニティ農園での循環型農業や養蜂などを通じて、自然と寄り添う暮らしの心地よさと豊かさを楽しんでいます。



●松村 正治（まつむら まさはる）  
NPO 法人よこはま里山研究所理事長

1999 年から多摩丘陵の里山保全運動にかかわり、2005 年から現在まで NPO 法人よこはま里山研究所(NORA)理事長。まちの近くで里山とかかわる暮らし、里山をいかす仕事づくりをすすめています。ほかに、モリダス代表、NPO 法人森づくりフォーラム理事など。

NPO での市民協働や地元町会長の経験をもとに、神奈川県ボランティア活動推進基金幹事会、横浜市市民協働推進委員会なども務めてきました。

一方、2020 年に大学専任教員を退職後、独立研究者へ。専門は、環境社会学、公共社会学。調査フィールドは、多摩丘陵、八重山、五島・対馬ほか。大学では、フィールド・スタディやサービス・ラーニング等の経験学習プログラムも担当しました。現在は4つの大学の兼任講師、市民向け環境講座のコーディネーターを務めています。



●山田 顕子（やまだ あきこ）  
ヨコハマ市民まち普請事業部会市民委員

こどもが1歳の時に横浜市に転入後、保育園難民となっていたところ、団体を立ち上げようとしている代表と出会い、2012年から活動に加わりました。立ち上げ時の手探りの頃より、NPO 法人化や指定・認定の認証取得に向けて等、その時々で事務局体制を整えることに務めています。2014年度には、

ヨコハマ市民まち普請事業に挑戦、整備対象団体となり「こまちカフェ」の立ち上げに大きく係わりました。同時に、2014年まで年刊誌「とつかの子育て情報冊子『こまちぷらす』」の編集長を務め3冊刊行、2015・2020年には戸塚区の発行する『とつか子育て応援ガイドブック まっぴい』の企画・編集に参加。2022年度は日本財団の助成による「社会的孤立を防ぐ『地域コミュニティ構築人材』の育成と展開事業」のマネジメントを担当、心地よい関わりのある居場所がまちに増えることを目指して活動しています。



### 3. ヨコハマ市民まち普請事業 令和5年度スケジュール

整備提案の募集 R5年4月3日(月)～R5年5月31日(水)



**1次コンテスト** R5年7月9日(日)



**2次コンテスト対象提案の決定**

現地見学会(令和4年度整備箇所) R5年8月22日(火)午後



2次コンテスト対象提案 活動懇談会 R5年9月23日(土・祝)



2次コンテスト対象提案 現地視察 R5年10月29日(日)



**2次コンテスト** R6年1月28日(日)

**本日!!**

**整備対象提案の決定!**

## 4. (1) 令和5年度 2次コンテストプログラム

### ☆ 10時30分～10時55分

- 開会
- 応援企業の紹介
- 審査員の紹介
- コンテストの進行説明

### ☆ 10時55分～11時45分

- 整備提案の発表等（1グループあたり10分）

### ☆ 12時00分～12時30分

- 審査員による情報収集タイムに向けたポイント整理

### ☆ 12時30分～13時05分

- 情報収集タイム

### ☆ 13時05分～14時15分

- 休憩（審査員間で情報共有）

### ☆ 14時15分～16時10分（YouTube配信終了）

- 審査方法の説明
- 公開議論・質疑
- 公開投票及び結果発表
- 講評

### ☆ 16時10分～16時40分

- 提案グループへの事務連絡、アンケート回答
- 交流タイム

### ☆ 16時40時

- 閉会

※当日の進行状況により、変更する場合がありますのでご了承ください。

## 4. (2) 2次コンテスト審査基準

### 1. 創意工夫

- ・【計画の工夫】住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ及びデザインへの配慮
- ・【工事の工夫】整備工事における地域での費用や労力の負担方法などの工夫
- ・【維持管理の工夫】整備した施設の維持管理・運営の実施方法などの工夫

### 2. 実現性

- ・地域（地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等）での合意形成
- ・関係機関との調整
- ・整備する施設の維持管理・運営計画

### 3. 公共性

- ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度

### 4. 費用対効果

- ・整備の規模（数量）と整備による効果の妥当性
- ・コスト縮減の工夫

### 5. 地域まちづくりへの発展性

- ・整備をきっかけに地域のコミュニティが広がる、又は深まる可能性
- ・整備をきっかけに地域のまちづくり活動が活発化する可能性
- ・他の地域によい影響を与える可能性

## 4. (3) 2次コンテストの投票方法・選考方法

### 1. 投票方法

提案ごとに「2票」「1票」「0票」の3段階で評価します。

整備助成対象として「特に推薦する」	2票
整備助成対象として「推薦する」	1票
「今後の取組に期待したい」	0票

### 2. 整備助成対象の選考方法

- ・ 過半数の審査員（審査員が8人の場合、5人以上）から得票し、かつ総得票数が審査員数（審査員が8人の場合、8票）以上の提案を整備対象として選考します。
- ・ 得票数が同点の場合は、投票した委員の多い提案を上位とします。

### 3. 令和5年度1次コンテスト免除提案の選考方法

選考数に条件を設けないことから、令和5年度2次コンテストでは、令和6年度1次コンテスト免除提案を選考しません。

※その他、不測の事態が生じた場合は、審査員及び事務局で協議の上、対応します。



## 5. 2次コンテスト提案一覧

発表順	提案グループ名	提案名	ページ
1	HOMMOKUもくりプロジェクト実行委員会	HOMMOKUもくりプロジェクト	13
2	ブルーベリーの丘を考える会	知ることで安心 子どもの遊び場と防災	28
3	弘明寺リビングラボ	データを活用したまちづくり	45
4	えだきん×夢叶きゃらばん	リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド	66

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。  
 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。  
 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	HOMMOKUもくりプロジェクト実行委員会
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	中区本牧満坂
提案名 (25字以内)	HOMMOKUもくりプロジェクト
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容 <sup>※1</sup> を工夫した点 <sup>※2</sup> にも触れて記入してください) <sup>※1</sup> 施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください <sup>※2</sup> 住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>2018年秋リトルファームHOMMOKUもくりとして古民家を再生し活動を開始。主に、高齢者がのんびり集える地域の居場所としてスタートしたが、施設への入りにくさ、中の様子(活動)が分かりにくいなどの課題があり、また水廻りの老朽化なども利用者の安全を考慮する上で早急な整備が必要になってきた。「ちょっとした困りごと」や「一人で過ごすこと」などの不安を、静かな緑に囲まれた場所で多世代交流が自然に起きる施設になるよう提案をします。</p> <p>■入り口の看板から、細道～もくりにつながる道を「もくもくもくり(黙々もくり)」「ふらっとしてのんびりできるところ。静かに好きなことをするところのキーワード)としてその先に行きたくなるようアイコンなどボードを掲げ中に誘導する仕掛けを工夫します。防音壁としても活用する園内案内図、イベント告知板の設置。これらは、<b>できるだけ廃材を集めてDIYとし費用を極力抑えます。</b></p> <p>■外周の整備 <u>収穫した野菜を置ける棚や農作業用の道具置き場や発酵食品の貯蔵庫</u>などを作ります。作業をしやすくすると同時に、畑から古民家の勝手口、貯蔵庫などへの動線を整備し、<u>スロープ</u>も設置することで気軽に出入りできる場とします。</p> <p>■地域の台所(将来的には菓子製造許可キッチン検討する)『台所』では、地域の名人の方から季節の料理(例:畑でできた野菜を漬け物にする。夏みかんをマーマレードにする)を教えてもらい、『料理』を通じて多世代交流が自然に発生できる<b>安全な台所にシンク改修</b>。防音対策としてサッシも改修と外と調理器具など受け渡しできる<u>カウンター</u>も設置します。</p> <p>■<u>スロープ</u>を勝手口と畑の入り口に設置</p> <p>■大雨や台風で浸水の恐れあるため、<u>下水溝・庭の排水溝の整備</u></p> <p>■<u>井戸の整備、雨水タンク設置</u></p> <p>■<u>外壁の修繕、電気の配電修繕、かまどの整備</u></p>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください)	<p>『自然と共生する本牧の実家』                  実家に帰った時のように、昼の居間でほっとできる場所。赤ちゃんから高齢者まで、一緒に過ごすことのできる、多世代が顔をあわせる居場所にします。                  《居場所の日》月・火・水・木・土曜日11:00～16:00(季節により変更あり)</p> <p>■個人利用者(ふらっと訪れる人)                  ・話をしたい、ゆっくりしたい、何も目的がなくてもフラッと行ける等、その人のニーズにあった誰でも来られる場にします。</p>

<p>※第1次提案書より具体的に記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑や花壇の手入れを、興味のある人で担うことにより、交流が生まれます。</li> <li>・今までは乳幼児親子とシニアの決まった人の利用が多かったが、小学生・中高生から中間世代、どの世代の人ももくりに来られる事を知ってもらうため、さらに周知に努めます。</li> <li>■ シェアスペース事業(グループや団体の活動の場としての利用)</li> <li>・子育て世代が、先輩パパママの話が聞ける。シニアがお喋りや手仕事をする近くで、子ども達が遊んで過ごせる等、気軽に寛げる場所として。</li> <li>・みんなの食堂の活動。</li> <li>・食のグループで「蕎麦の会」や家族連れで参加できる「収穫と季節の催し」などの開催。</li> <li>・体操、ヨガなどの健康作り活動。</li> <li>■ 自主事業(お茶、習字、裁縫などの教室)</li> <li>・もくりに主体的に関わっている方が定期的に開催しています。掲示板やSNSなどで発信し参加者を増やします。</li> </ul> <p>誰でもふらっと立ち寄り、目的のある人とない人がいつの間にか間接的に関わられるような環境を作ることで、顔見知りを増やし、もくり以外で会っても挨拶やおしゃべりができ、お互いさまの関係が生まれることを大切にしていきます。また、イベントや教室への参加をきっかけに、もくりの活動に興味を持ち、畑の活動、DIY、管理人などとしてもくりに関わることに繋がっていきたい。</p>
<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>本牧満坂は住宅街で、公園、コンビニ、食事をするところ、休憩するところがないため、気軽に交流ができてにくい地域です。家の建て替えが進んで新しい若い世代が増えている地域でもあります。孤立しがちな高齢者や外国籍の人だけでなく現役世代も、のんびりする場所・ゆったり息抜きする場所を求めていることをアンケートなどから感じました。だから、庭や畑があり、作物を育て収穫し、畳の部屋でくつろげる空間があるもくりに、気軽に来てもらうための周知や仕掛けがもっと必要だと感じました。</p> <p>また、谷戸の地形がもたらす境界線が曖昧なお互いさまの昔ながらの暮らし方、本牧ならではの祭り(1566年から受け継がれるお馬流し)・伝統・風習を伝える場所として、地域の方にもくりを今まで以上に活用してもらいたいです。</p>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ デザインができる、設計図が描けるメンバーがいるので自分たちで行います。</li> <li>■ 水回りなどの専門的なところは近所の工務店にお願いします。</li> <li>■ DIYができるメンバーもあり、棚や外構など自分たちでできるものは自分たちで行います。また、看板やアイコン制作、敷石の設置などは、イベントとして地域の方々に参加して頂き、もくりと一緒に作り上げます。</li> <li>■ 地域の方からのリフォームや改修工事の情報を集めて、廃材の材料の調達をし、ゴミを資源に変え、リサイクルさせています。今回の整備でも活用し、地域からゴミを出さないで循環させコストをかけない整備を目指します。</li> </ul>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>【スタッフ】管理人はメンバー3名がメインで行う。協力を申し出てくれたメンバーには、イベント時のボランティアのほか、運営にも参加してもらう。より柔軟な運営ができるよう、さらに担い手を発掘し人材を探していく。</p> <p>【運営費】居場所として施設を利用するには利用料(会員2,000円/1年または200円/1日)を徴収します。もしくは、台所や各スペースをシェアスペースとし利用料(1,000円/2時間)を徴収します。また、畑で収穫した野菜や手芸教室などで作った手作りを販売しカンパ金を運営費とします。</p> <p>【広報】インスタグラムやチラシから情報を得ている人が多いため、多くの世代に情報が届くよう、SNSと紙ベースの両方で発信していきます。『もくり通信』を3ヶ月に1回発行予定。もくり紹介リーフレットを一新し協力してもらえるお店などに置いてもらう。気軽に遊びに来られるよう周知に努めます。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。



- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<p>■イベントを企画し、もくりの周知と意見を伺う機会(アンケート)作成。 ・5周年記念イベント(食事会、ヨガ、着付け&amp;お茶会、1日カフェ、アップサイクル研究会、人形劇、駄菓子屋を実施) ・ボランティア交流会 ■広報活動 ・タウンニュース中区版掲載。 ・5周年祭りを開催し、1次コンテスト通過のお知らせを載せ発行。チラシ250枚近隣配布した。 ・チラシ100枚、本牧原地域ケアプラザ、本牧和田地域ケアプラザ、中本牧コミュニティハウス、本牧山頂公園レストハウスに説明・配布。 ■見学 ・まち普請事業通過の先輩事例に訪問、コンテストに向けたアドバイスをいただく。</p>
<p>関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください)</p>	<p>・地権者:了承済み、耐震工事済み。 ・隣接住民説明:個別説明、10件説明済み。 ・もくりに関わってくれている人に修繕を手伝っていただく。 ・町内会、連合町内会の会合で説明、引き続き支援・協力をいただく。 ・本牧原地域ケアプラザ:すでに連携はしている。 ・民生委員、児童委員、地区社協との連携をし、地域の困りごとを共有しもくりでできることを考えていきます。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>もくりの敷地の入り口に立つと、古民家があり庭には季節の花々や野菜が育てられているのが見えます。古民家に入ると、畳の居間があり、雨戸や窓や建具などが木で作られていて昭和の暮らしを感じられます。鳥や虫の音が聞こえ、花の香りがし、畑での作業をすることにより土や植物や虫に触れ、五感を刺激されます。もくりでは季節の行事を大切にしている、80年前のお雛様や手作りの鯉のぼりを飾ったり、畑で採れた野菜で料理や、夏みかんのマーマレードを作ったりします。昔ながらの四季折々の暮らし方を再現します。忙しく生活をしている子育て世代や一人で過ごす単身者がもくりの空間に来てほっとし、季節の行事をみんなで行うことで交流が生まれ、つながりが作られます。</p>
<p>目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)</p>	<p>『人や物が循環する本牧』 野菜から出た生ごみを堆肥にして畑の土作りに使い、そこから野菜を育て収穫し調理し、また生ごみはコンポストに還します。物は、買う前に他の何かで代用できないか考え、捨てる前には何かに使えないかを考えます。地域で出た要らなくなった物を譲り合ったり、工夫して作り替えたりします。興味関心の同じ人が集い一緒に作業することにより連帯感が生まれお互いさまの関係性が育まれます。人や物が集まり循環することにより暮らしが豊かになります。もくりの空間や活動を共有することにより、季節の移り変わりを感じ自然と共に生きていること思い出し、手仕事や保存食作り、季節の行事などを人と関わり合いながら行うことで地域で暮らす安心感が生まれます。お互いさまの関係性が生まれたことにより、いざとなったら助けあえる関係性にもつながります。属性に関わらず誰でも大切な存在として尊重され、生き生きと暮らします。そして小さな拠点が各地域にできることを目指します。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報含まれていません。

# 位置図

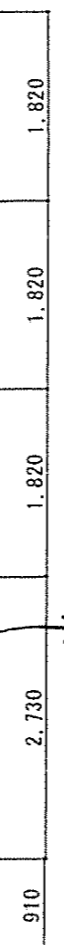
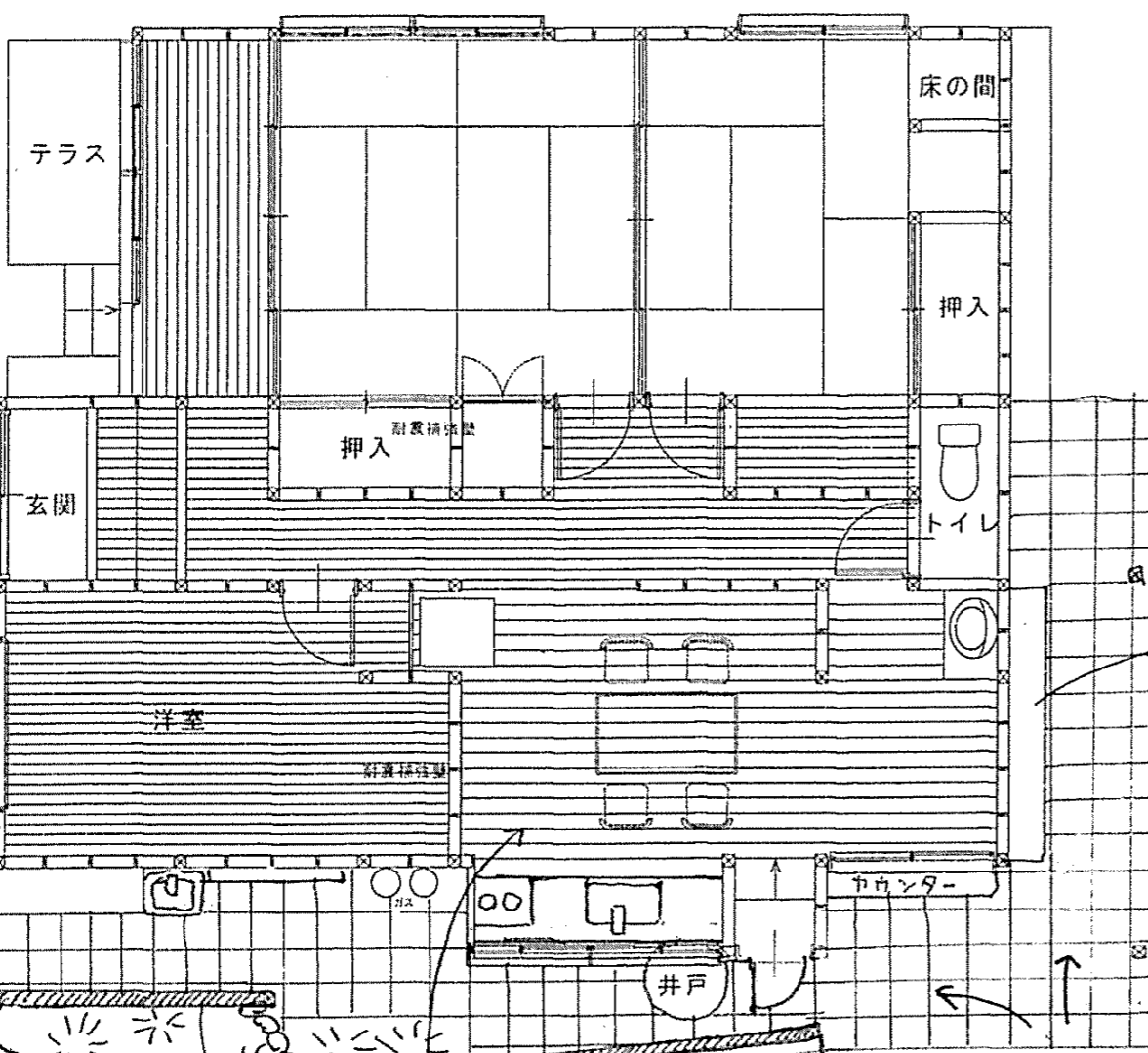


隣地

駐車場

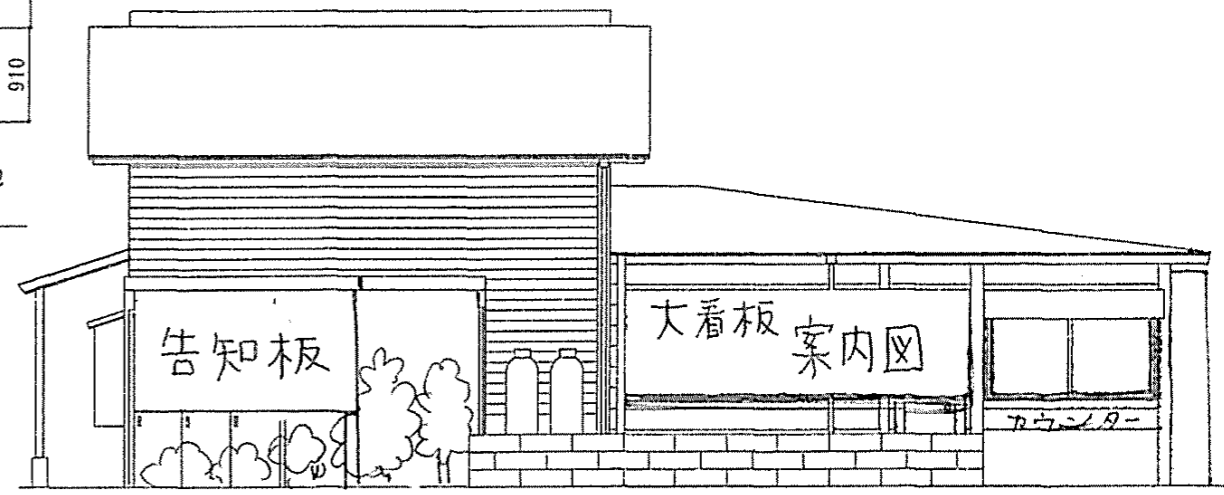


かまど



南立面図

→貯蔵庫<sup>道</sup>具置場、棚



北立面図

畑

洋室

押入

床の間

押入

玄関

トイレ

カウンター

井戸

ブロック塀

スロープ入口

告知板

案内案内図

キッチン詳細図参照

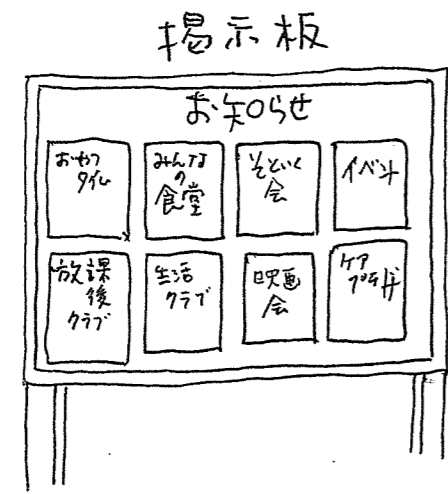
隣地

路地L  
建物GL

隣地 アジト

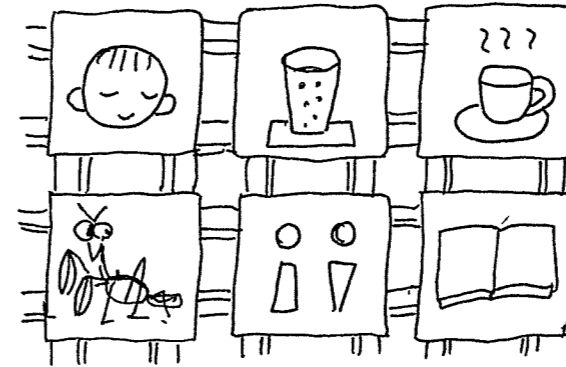
工事名	HOMMOKUもくり						
図面名	平面図、立面図	尺度	1:100	年月日	23.11.23	図番	

# 完成予想図



大きな  
カンバン

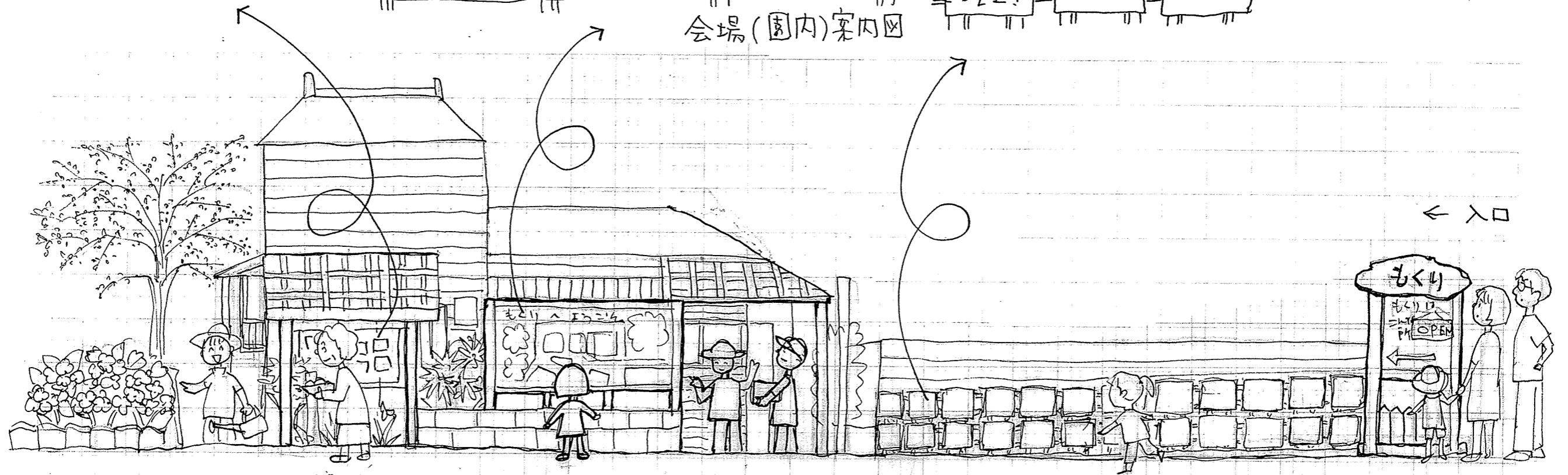
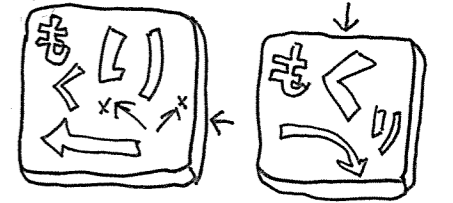
入口のアイコン



近隣の家々

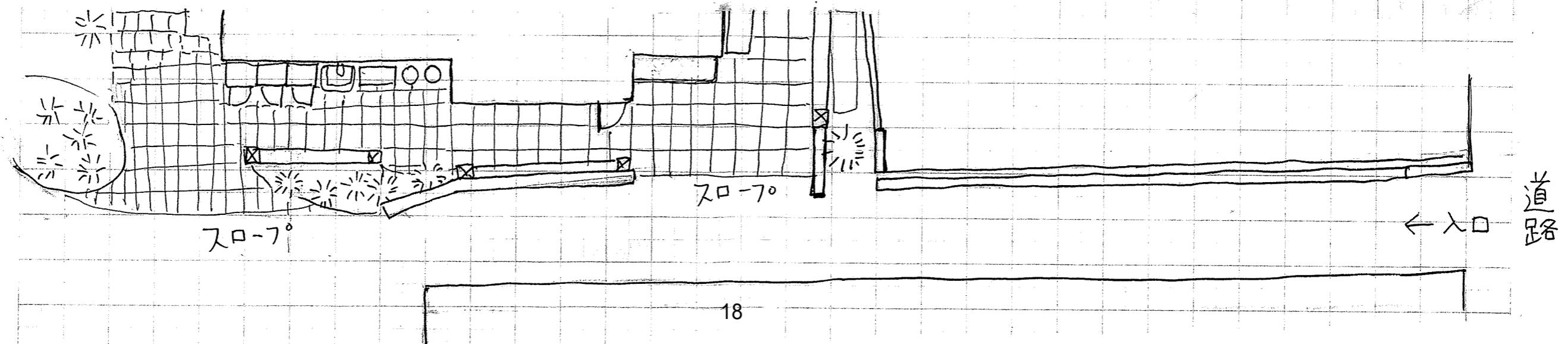
・ 町内の掲示板の下に

案内矢印を  
掲示する

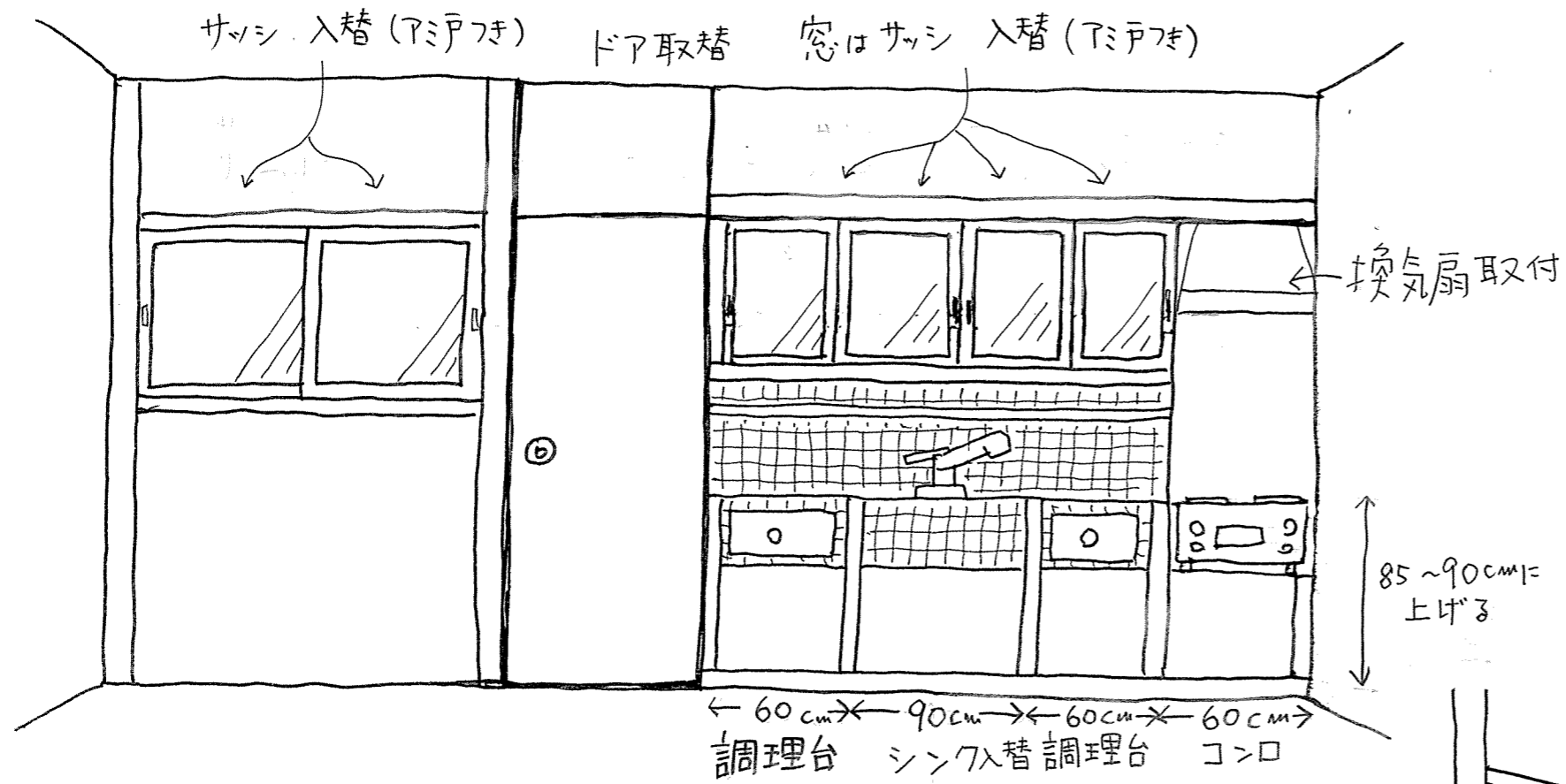


789 05 禁止事項

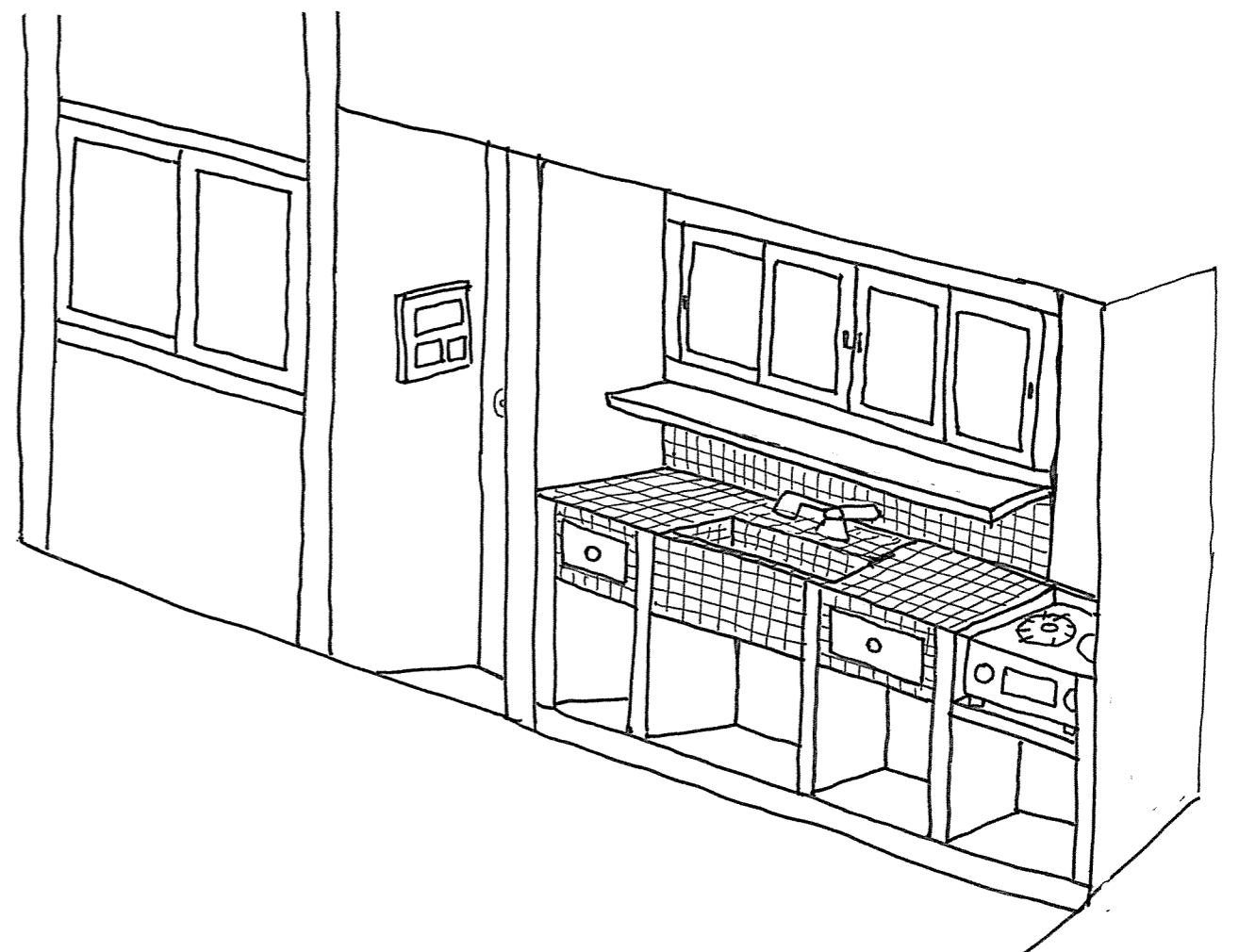
J15 B4 230X330mm



# キッチン詳細図



タイルを貼る  
シンク下は引出し式の物入を作る



## ヨコハマ市民まち普請事業

### 想定整備費用内訳書

#### ※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 （費用又は労力の負担等）
内装工事	サッシ・シンク 取替工事、給排水 設備工事など	1	式	1,180,000	キッチン仕上げ工 事はボランティア で（2週間×5 人）
トイレ設備配管 工事	排水管取替工 事、桝取替工 事など	1	式	506,500	
雨水設備工事	透水管取付工 事、桝取付工 事など	1	式	545,000	
井戸設置工事	浄水洗浄工事 （水質検査共等） など	1	式	805,000	
外構工事	通路側整備（ス ロープ）、タイ ル工事、庭の水 はけ改善工事な ど	1	式	766,600	タイル張りはボラ ンティアで（3週間 ×5人）
外壁工事	外壁修繕、電気 配電修理、建具 取替工事など	1	式	735,000	
諸経費				98,264	
材料費	看板設置、かま ど整備、雨水タ ンク整備など	1	式	100,000	
消費税				473,636	
合 計				5,210,000	

# 1次通過後の活動報告

月	火	水	木	金	土	日
7/10 7月 広報研修	11 就労	12	13	14	15 みんなの食堂	16
17	18 就労	19	20 生活クラブ 集会	21	22 食事会	23
24 役員会 蕎麦うち 体験会	25 就労	アドバイザー 顔合わせ	27	28 フォトスタジオ と打ち合わせ	29 おやつタイム	30
31 活動報告会	8/1 8月 キッチン打合せ	2	3	4	5	6
7 タウンニュース 取材	8 就労	9	10 夏季休業 ←	11	12	13
14	15	16	17	18	19 みんなの食堂	20
21 役員会	22 就労	見学ツアー →	24 キッチン 打合わせ	25	26 おやつタイム	27
28	29 就労	大鳥小学校 支援級見学	31 9月	9/1 まち普請 zoom会議	2 生活クラブ 取材	3
4 ヨガ教室	5 広報ヨコハマ 中区版取材	6	7 書道部	8	9	10
11 広報研修	12 就労	13	14	15	16 みんなの食堂	17
18 役員会	まち普請会議	20 大鳥小学校 支援級見学	22	23 まち普請 懇談会	24	10月
25 運営委員会	26 就労	27	28	29 チラシ印刷	30 おやつタイム	10/1
2 チラシ印刷	3 チラシまき	4	5 書道部	6	7 イベント準備	8
9	10	11	5周年記念イベント			14
16 役員会	17 就労	18 広報研修	19	20	21 みんなの食堂	22
23 自然農法 学習会	24 就労	25	26	27 ハロウィン イベント	28 おやつタイム	29 現地視察
30	31 就労	11月	2 書道部	3	4	5
6	7 就労	8	9	10	11 近隣説明	12
13 ヨガ教室	14 就労	15 近隣説明	16	17	18 大鳥自治会 文化祭	19
20 近隣説明	21 就労	22 手芸部	23	24	25 おやつタイム	26
27 役員会	28 就労	29	30			

開園日 月、火、水、木、土

開園時間 11:00~16:00

\*季節によって変更あり

臨時休園あり。

開園日 平均来年園者数

月~木 2人前後

土 4~5人前後

会員 2018~2023年 60名

2023年度 25名

団体会員 4団体

5周年記念イベントの  
看板



5周年記念イベント  
10/9~15

10/9(月) AM  
ヨガ教室 (本牧  
在住の講師)

10/9午後蕎麦打ち体験  
(蕎麦職人さん南区在中)



10/10(火) 着付け&お茶会

10/11(水) もくり カフェ

10/12(木)

アップサイクル研究所  
~コースター作り

講師はいずれももくり  
のボランティアさん



10/14(金)

人形劇 (本牧で活動の  
人形劇グループ)

& 駄菓子屋



10/15(日) ボランティア懇親会

曜日ごとにボランティアさんが違うので、  
初めての合同交流会



\*役員会 運営スタッフ (代表、副代表、総務) 3名で月1回開催

\*運営委員会 3~4ヶ月に1回開催。(そといく会、アジト  
生活クラブ、地域ケアプラザなど 連携グループが参加)

定期的な利用団体

もくりの自主活動

畑の管理、花やハーブの手入れ  
野菜販売によるカンパ活動、土木、  
大工仕事、就労支援事業受など、



\*みんなの食堂

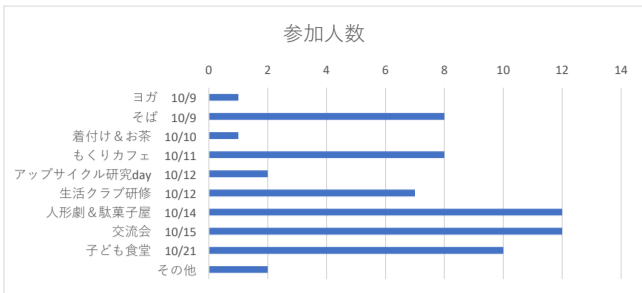
手芸部(手作品でカンパ活動) 書道部

\*食育グループあんぐりもんぐり。月1回のおやつタイム)

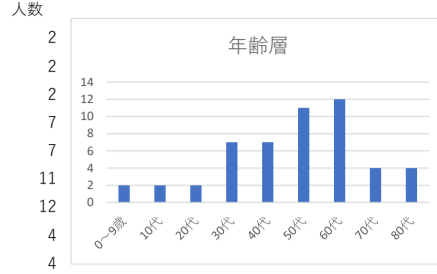
来場者アンケート集計

2023年10月9日(月)~21日(土)

参加イベント	参加人数
ヨガ 10/9	1
そば 10/9	8
着付け&お茶 10/10	1
もくりカフェ 10/11	8
アップサイクル研究day 10/12	2
生活クラブ研修 10/12	7
人形劇&駄菓子屋 10/14	12
交流会 10/15	12
子ども食堂 10/21	10
その他	2
計	63



年代	人数
0~9歳	2
10代	2
20代	7
30代	7
40代	11
50代	12
60代	7
70代	4
80代	4



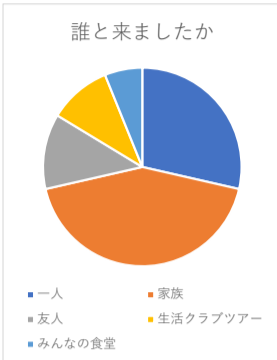
住んでい	人数
中区	37
中区外	11



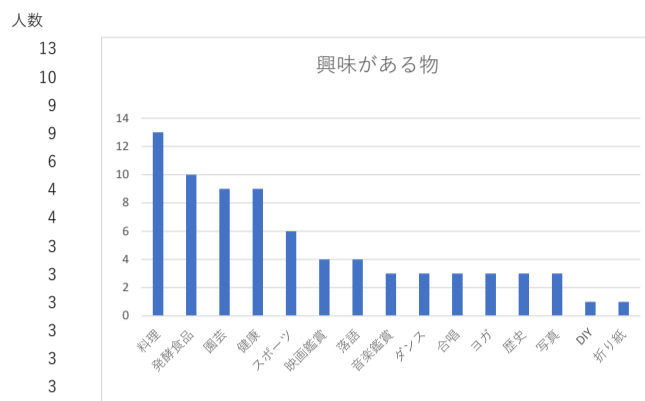
性別	人数
男性	9
女性	42



誰と来ま	人数
一人	14
家族	21
友人	6
生活クラ	5
みんなの	3



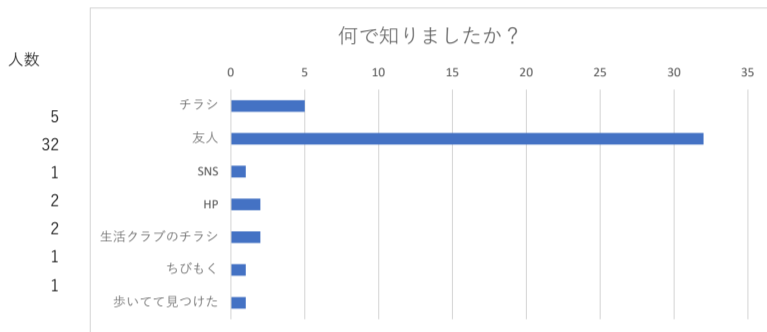
興味がある物	人数
料理	13
発酵食品	10
園芸	9
健康	9
スポーツ	6
映画鑑賞	4
落語	4
音楽鑑賞	3
ダンス	3
合唱	3
ヨガ	3
歴史	3
写真	3
DIY	1
折り紙	1



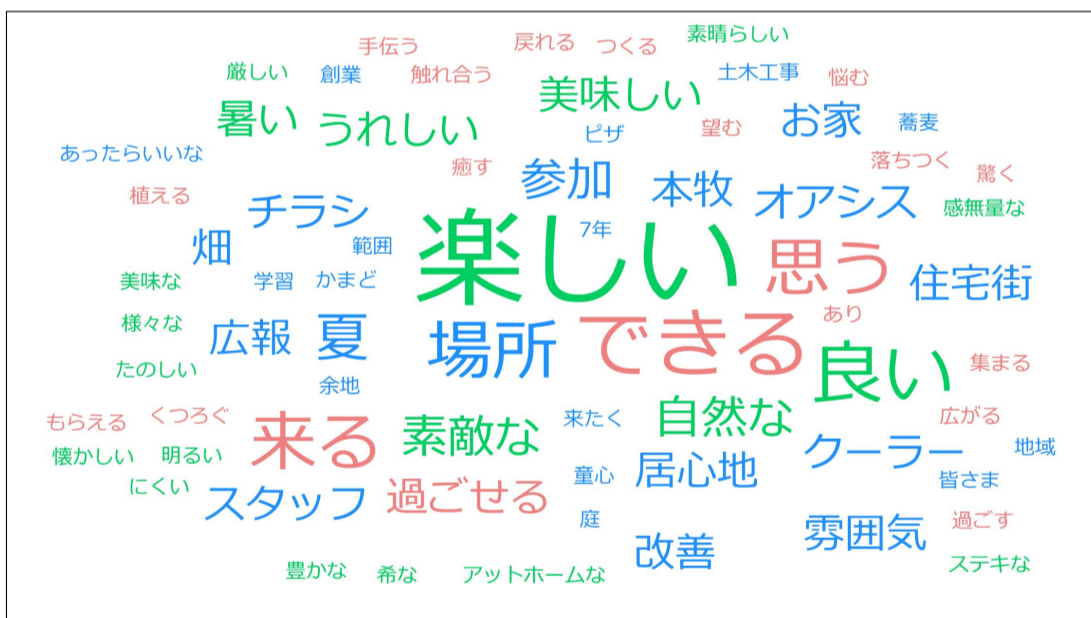
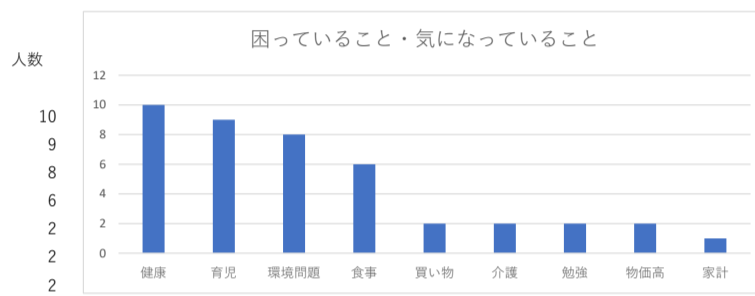
もくりに来たのは何回目?	人数
初めて	9
2回目	4
3回目	33

何で知りましたか?

知った方法	人数
チラシ	5
友人	32
SNS	1
HP	2
生活クラブのチラシ	2
ちびもく	1
歩いて見つけた	1

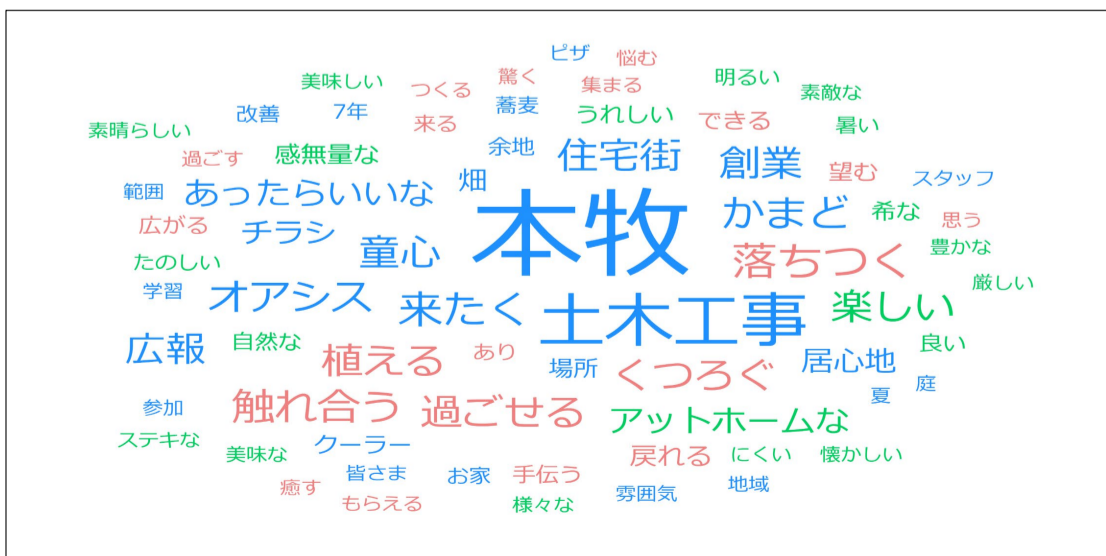
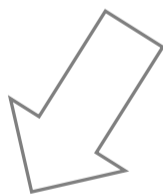


困っていること	人数
健康	10
育児	9
環境問題	8
食事	6
買い物	2
介護	2
勉強	2
物価高	2
家計	1



もくりの感想キーワード

※アンケートで出た頻度の高いものほど大きい字



もくりらしい感想キーワードを並び替え



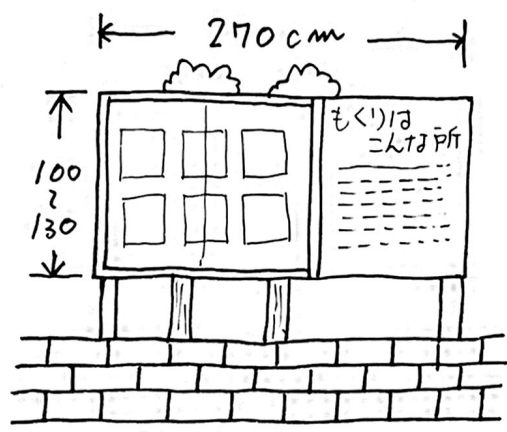
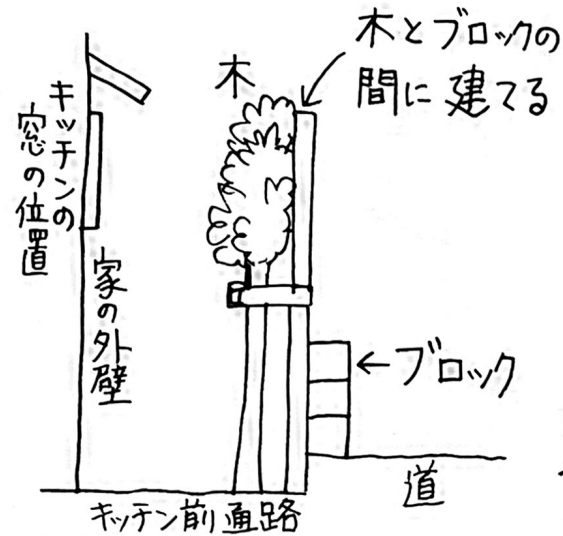
2次コンテスト事前質問集

【提案名グループ名】 HOMMOKU もくりプロジェクト実行委員会	
事前質問	回答欄
朝比奈委員	
① 告知板や園内案内図、案内矢印プレートの素材や作り方、プレートの設置方法を教えてください。	素材は主に木で、できるだけ廃材を利用します。廃材回収ネットワークがあります。 *別紙1参照
② 事業の収支計画について教えてください。	<u>収入</u> 年会費、野菜や手作り品の販売によるカンパ、レンタルスペース料、利用料等 <u>支出</u> 固定資産税、水道光熱費、備品、消耗品 手作り品などの材料費、通信費等 収入が上回った場合は、修繕費用などの維持管理費としてストックしておきます。 *別紙2参照
植松委員	
① 先般視察に伺って、楽しいことをやっている楽しい処、という皆さんの姿勢を実感しました。それにしても「始めの一步」を踏み出してくるのはなかなか難しいことと思われませんが、どうやって見ず知らずの新しい利用者確保していくのか、その工夫を教えてください。	機関紙「もくり通信」を定期的に発行して、地域ケアプラザや地区センター、コミュニティカフェに置いてもらい、町内会のHPなどにも載せます。内容はもくりの活動の様子ほかに、もくりを通して私たちが知り合った「地域の達人」紹介やお店や他団体の活動紹介、本牧の歴史情報など、地域愛あふれる情報を載せます。どれかのキーワードに引っ掛かって、もくりに関心が向いて、行ってみたくなるような紙面作りを心がけます。同様の内容をHP、SNSなどにも載せます。 とはいえやはり、もくりの事をよく理解し協力してくれる下記の皆さんの口コミが一番と考えています。 コミュニティラジオマリンFM、商店街の本

	<p>牧ベース・コミュニティカフェ楽・さとうえいこ美容室・リユースショップWEショップほんもく店、近隣で活動しているグループのそといく会・本牧アジト・「本牧本」の編集委員さん、大鳥自治会の会長さんと副会長さん・本牧原地域ケアプラザの職員さんたち、生活クラブ生協の組合員さんたちなどからもくりのことを聞いて、興味関心のある人たちが期待して訪れてくれた時、わかりやすくきれいで安全な場所に整備し、のんびりと静かに過ごせる空間にしたいと思います。</p>
<p>② こんな古民家でのひと時と、畑を渡る風が清しい生活を子ども達も経験するとよいと思いますが、近隣小学校との連携があれば教えて下さい。</p>	<p><u>大鳥小学校</u>：2年生（当時）が野菜の育て方について見学に来たり、支援級の子もたちとの交流では収穫体験や質問（インタビュー）を受けて、校内新聞に載せてくれました。</p> <p><u>本牧小学校</u>：児童が学校の近くのショッピングモールに置くプランターの花の育て方を聞きに来ました。</p> <p>↑上記2校は、もくりによく来る子ども達が担任の先生に話して実現したことです。</p> <p><u>本牧南小学校</u>：もくりの畑ボランティアさんが出張し野菜の育て方を教えに行きました。こちらは、以前から本牧南小学校にボランティアに行ってる方に誘われて一緒に行きました。</p> <p>ちなみに</p> <p><u>アソカ幼稚園</u>とも交流があり、さつまいもの畑を貸し出し、苗の植え付け～収穫体験をサポートしました。</p>
川原委員	
なし	
後藤委員	
なし	
杉崎委員	
なし	

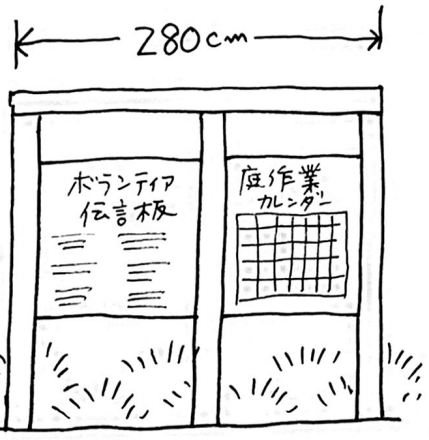
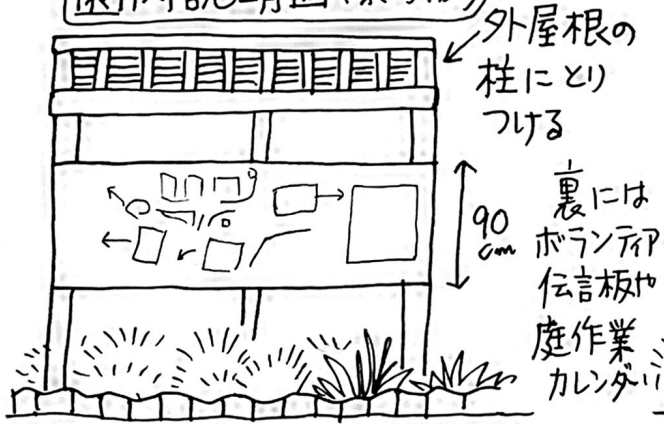
肥後委員	
① 井戸について記載がないようですが、活用できそうですか。	井戸は、今ある場所で組み上げ装置を作らなくても、別の場所まで伸ばすことができることがわかったので、どの場所に設置するのが適切か検討中です。費用は計上しています。
松村委員	
① すでに充実した活動を展開されていますが、整備後に新たにかかわりを持つ人はどのような人を想定していますか。	子育て中のパパや、現役世代&単身者、引っ越してきた方など、地域との接点が少ない人たちが入口のアイコン看板に導かれて、「誰でも入っていいんだ」と、ついつい中に入ってきて、のんびりしたもくりの光景を見て「なんだここは？」と驚き、やがてゆったりほっこりして、そして何かできること・やりたいことを見つけて参加してもらい、ワクワクに繋げていきたいです。
山田委員	
① まち普請の助成費用だけでは足りない部分に関して、資金調達方法の計画があれば教えてください。	野菜や花などの庭の収穫物や、手作り品を返礼品として支援金を集めます。

告知板

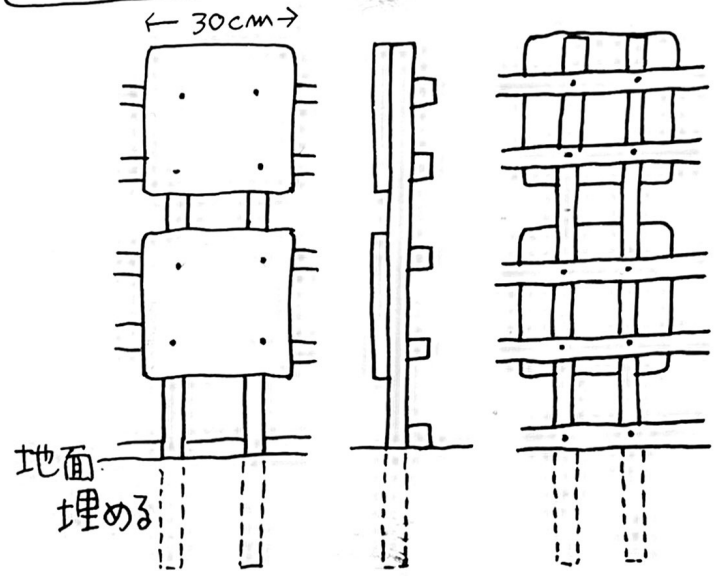


告知の掲示板の方には  
アクリル板のカバーをつける。  
とりつけ方は検討中

園内説明図(案内板)

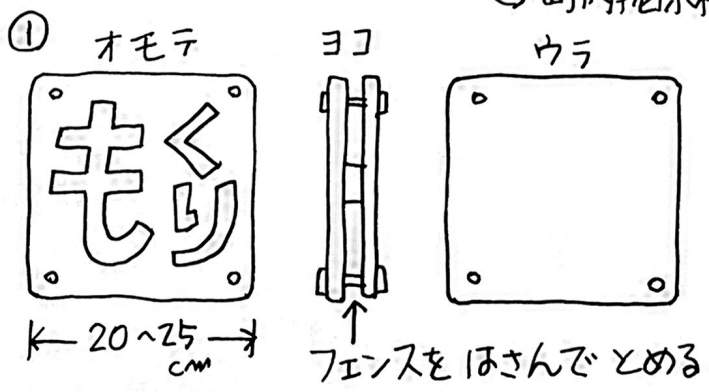


アイコン板



案内板

とりつける場所① 個人宅のフェンス 2ヶ所  
② 町内掲示板の下1ヶ所



② 掲示板の  
建てる足にはさんでとめる

※ 2次提案書は 道の脇、キッチンの横に園内説明図板  
外屋根に告知板もとりつけると提案しましたが、  
逆にしました。

あくまでもイメージ図です。

別紙2 収支計画

【収入】

項目	内容	月			年間	備考
		金額	人数	金額		
年会費	2,000 円 / 月	2,000 円	3 人	6,000 円	72,000 円	会員になると年間 利用し放題
利用料	200 円 / 日	200 円	15 人	3,000 円	36,000 円	
レンタル スペース代	1,000 円 / 2 時間	1,000 円	20 時間	20,000 円	240,000 円	
支援金 (野菜、花 手作り品)	支援金の返礼品とし て、収穫物や手作り 品を渡す	200 円	60 品	12,000 円	144,000 円	
自主事業 (イベント参加費 手芸部、書道部 就労支援事業)	参加費は利用料と同額 +材料費+講師代	200 円	30 人	6,000 円	72,000 円	
寄付金	常時 募金箱設置	100 円	30 人	3000 円	36,000 円	
					50,000 円	600,000 円

【支出】

項目	内容	月	年間
運営費	固定費 (電話代、光熱費、家賃)	23,000 円	276,000 円
	町内会費	300 円	3,600 円
	保険	2500 円	30,000 円
	その他 (備品、消耗品、雑費)	10,000 円	120,000 円
		35,800 円	429,600 円

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。  
 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。  
 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	ブルーベリーの丘を考える会
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	金沢区 高舟台 1丁目
提案名 (25字以内)	知ることによって安心 子どもの遊び場と防災
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容※1を工夫した点※2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記して下さい ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの遊び場に隣接する斜面（法面）に”つづら折り遊歩道”を整備し、高精度の傾斜センサーと震動センサー（以下纏めてセンサー）を設置する。バス停から見える場所に簡易モニターを置き、計測したデータを誰でも見られる様にする。また、ブルーベリーを植樹する(以下纏めてブルーベリーの丘)。</li> <li>センサーデータは携帯通信等に伝送する遠隔監視システムとする(以下纏めてモニタリング値)。</li> <li>沢ガニが生息する湧き水場所をビオトープとして整備し地下浸透を減らす。</li> <li>遊歩道のアクセントに休憩場所(将来)や登り縄を設置する。</li> <li>昆虫の生息地保全のため樹木を残し遊歩道の改修は既存物を最大限活用する。</li> <li>ブルーベリーを植樹した記録、既存樹木名や標高看板を設置する。また、盛土の造成史や地形・地質、歴史を学べる看板を設置する(一部寄付も募る)。</li> <li>法面を安全に利用するためのルールを定める。</li> <li>災害時に活用するかまどベンチ(一部将来)、地下水位の観測井(将来)、外水栓(既設)を整備する。</li> </ul>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第1次提案書より具体的に記入してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達は遊びを通じ思いやりやルールを知る。自己や他者を認識しながら「心のバランス」や「創造力を育み」成長する。身近なブルーベリーの丘を散策し昆虫に触れ季節を感じながら「気づき」の大切さを知る。</li> <li>訪れた方は南向きの陽当りの良いかまどベンチに座り、花芽の付いたブルーベリーの丘を眺め一時を過ごす。果実を収穫し料理し自慢話等を楽しむ。</li> <li>現役世代は遊歩道を登り降りし体力に応じ肌感覚で五感を鍛える。人々の交流の場や身近な自然の草花をバックにフォトコンテストも楽しい。</li> <li>災害時を想定してかまどベンチを使った煮炊きの体験や一泊防災キャンプの開催。地域の子どもたちで「センサー確認隊」を作り、日頃の数値確認を実施する。夏休みにはファミリー防災キャンプとセンサー確認イベントを組み合わせ、自由研究を兼ねて子どもと防災体験できる機会を作ります。</li> <li>発災時にとるべき行動(登下校・外出時・子どもの留守番・一人暮らしの老人)や発災直後のかまどベンチを活用した被災訓練(炊き出し)を家族や地域で考える現実的防災教育イベントを企画する(自主防災組織との連携)。</li> <li>発災直後に必要な資機材(持ち物や常備品)や避難方法をモニタリング値から世代別や居住別目線で、より多くの地域の方が参加するデータに基づいた防災訓練に結び付ける。</li> </ul>

<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地造成から58年が経過した。法面や擁壁が安全なのか素人目線で議論が絶えない。有識者の目視評価は経過観察である。定量的安全度を知ることによって次に繋げたい。</li> <li>・金沢区の防災計画(震災対策)は30年以内に震度6弱で14%の建物被害。公的な地域防災拠点は高舟台小学校、対象は約7千人弱である。</li> <li>・当館は土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域に隣接する。分散避難場所や在宅被災者へ物資の分配・情報伝達拠点として活用したい。</li> <li>・当地の法面や擁壁及び造成地の安全性に関し、周辺住民も関心を持っている。定量的な評価で確実な情報発信(情報開示を含む)を有する事が大切と考えた。</li> <li>・地域共通課題を解決する第1歩に法面にセンサーを設置し地域減災に繋げたい。園児や低学年に遊びから防災を考える機会を作りリスク意識を高めたい。</li> <li>・子育てサロンや地域活動等、当館は広く利用されている。ブルーベリーの丘を活用し、地域住民の拠点や集い憩いの場を常に利用できる状態を維持したい。</li> <li>・東西約1kmの東側の端にある当会館(当館)は、常駐管理のRC造り2階建てである。トイレも水道も固定電話もAEDも防犯カメラも備え、駐車場もある。安心・安全が得られている資産をもっともっと活用したい。</li> <li>・また、最短の公園は西1kmの所にあるが、東側は自治会館横の小さな子どもの遊び場のみなので、子どもたちが集まれる場所を造って欲しいとの、住民からのかねてからの願いをかなえたい。</li> </ul>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用縮減の工夫に触れて説明してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法面は高舟台自治会(自治会)が保有管理する資産だが、現在草刈りや梅の実を採る時に限られ、普段は施錠され住民の立ち入りが出来ない未利用資産です。</li> <li>・急傾斜地崩壊危険区域について関係機関と完成予想図(案)を示し事前相談に伺った。離隔距離(1m以上)と着工前届出を確認した。</li> <li>・中央開発(株)(以下中央開発)は既往資料で地質断面図を作成し地下水位を①排水異常と大雨時、②排水正常と大雨時、③排水正常のモデルで安定計算を実施した。結果、大規模地震時でも②③は安全率1.0以上を確認した。但し、①は安全率1.0を下回る結果となったため、法面の整備は可能と判断し野島層を熟知した業者に依頼予定です。</li> <li>・軽度の作業は自治会等のDIYで行う。極力既存設備を転用する予定です。</li> <li>・法面の安全性をインタラクティブに評価し、その結果を法面利用者や周辺住民に伝達するため、中央開発や東京大学、(独)土木研究所が共同開発し実績が多く、管理が容易な中央開発製センサーを採用し設置する予定です。</li> </ul>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者や専門家とも相談しながら、法面の利用時間・期間に関する規則(例えば、降雨時や降雨後、地震後立ち入り禁止措置等)を整備、これを運用する。</li> <li>・施設の管理は自治会会則に準じ、遊歩道の利用は申し出制を原則とする。</li> <li>・また、施設内の怪我や事故は自己責任、「少し危ないかな」の経験と対応力を鍛え、リスク管理を常に学び、遊びのルールは自らが考え選択とする。</li> <li>・植栽等の管理は自治会運営方法を踏襲し住民参加型とする。</li> <li>・モニタリング値は常時関係者に伝送(閲覧)し危険度判定は管理基準値(閾値)で判断する。同様の地質や造成地で悩む地域と連携しコミュニティを助け地域連携に繋げる。また、定期的に状況を解析し報告会やイベントを開催する。</li> <li>・センサーの管理は無線通信機内の単2乾電池4本の取替と状態チェックが基本。極力自治会が管理する事で費用の軽減化をはかる。</li> <li>・これまで以上に、周辺住民と協力しながら法面や擁壁の維持管理(日常管理、目視点検)を住民参加型モニタリングとして管理や点検を実施する。</li> <li>・運営費は自治会の年間予算やワークショップ開催費で賄う予定である。</li> <li>・ブルーベリーの丘を整備後(途中含む)、運営ワークショップを開催する。具体的な遊び方やその本質、学びの効果と応用、世代・地域を繋ぐ、センサーを活用した防災・減災に適用、面白さ楽しさ効果を探す知恵と工夫を考える。</li> <li>・マネジメントは継続性を重視します。世代や地域を超え将来を見据え幼稚園や小学校・PTAと連携します(メンバー以外の協力団体)。増強設備は、その必要性や効果、地域への貢献度を精査したうえでトライする予定です。</li> </ul>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例7月度理事会で当該事業の結果報告と2次コンテスト応募について審議決定を行なった。</li> <li>・計画内容と図面を持参し神奈川県横浜川崎治水事務所（急傾斜地崩壊危険区域）や横浜市役所建築局（土砂災害特別警戒区域）を訪ね説明した。離隔の確保と工事着工届で問題無いこと、建築物に該当しないことを確認した。</li> <li>・近隣世帯（大道や高舟台で19世帯）に説明会開催のポスティングを行なった。</li> <li>・実際の法面に入りブルーベリーの丘（計画図）を創造し、会員や協力者等によるワークショップを開催、遊びから学び防災の具体例を整理した。また、小学2年生60人まち探検、子供63名ハローウィンで意見を纏めた。</li> <li>・会員以外を含め48名が参加したエナジー&amp;エネルギー（E&amp;E）セミナーで地域への発展性に関して、それぞれの立場で2次コンテストに向けた検討、地域発展性について、期待したい事や貢献できそうな事を纏めた。</li> <li>・遊びや学びを三輪律江教授に子どもの行動や接し方の助言を頂いた。</li> </ul>
<p>関係者の合意・調整状況 （地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》で合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地権者は認可地縁団体の自治会です。</li> <li>・定期総会に次ぐ審議機関の理事会と地区長会で当該事業を審議決定した。</li> <li>・自治会ニュースや回覧等で2次コンテスト応募に関する事を報告した。</li> <li>・また、大勢人が集まる夏祭りやイベントに1次コンテストプレゼン資料を掲示し周知した。また、自治会の協力団体及び会員に説明会を開催した。</li> <li>・近隣世帯に説明会を開催した。</li> <li>・近隣の大道町内会長に、会長会等で状況を報告した。</li> <li>・六浦西地区町内会連合会（19町内会）でまち普請事業“知ることで安心子どもの遊び場と防災”事業展開と地域への貢献について研修会で講演をした。</li> </ul>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング値はリアルタイムで携帯電話回線を利用して自動的に伝送（標準10分間隔）する。データはグラフ化しインターネット配信する。</li> <li>・管理基準値を超えた場合、事前に設定した自治会員並びにそれ以外の設定者の方にモニタリング値（警報）を発信する。</li> <li>・モニタリング値の情報を得ていても災害時の避難のタイミングは、各々状況や場所、リスク度の考え方、家族構成で異なる。自分の身は自分で守る意識を待つために幼少期から自然に触れ「心のバランス」「創造力」「気付き」を育むブルーベリーの丘としたい。</li> <li>・地盤品質判定士会（以下有識者）と一緒に高舟台の地形・地質・土地の形成を説明巡検し貴重な意見や質問を得るきっかけとなった。反響が大きかったため施設整備後、定期的に法面、地盤、気象セミナーの地域での講演を開催するなど住民と意見交換し総合的な防災（案）を組み立ていく予定です。</li> </ul>
<p>目指す地域の将来像 （施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当会は年間30世帯以上の転入者がある。14歳以下の割合は微増している。子供達が自由に戯れ自分の責任で遊びを創造出来るブルーベリーの丘で、知ることの大切さを学び安心を得る。遊びから防災を学びリスク管理の大切さを幼少期から育てたいと考える将来に繋げたい。</li> <li>・東日本大震災では、公的な避難場所以外の強固な建物が任意避難場所として活躍した。日頃なれ親しみ過ぎた地を離れることなくコミュニティを維持した空間を少しでも速く確保したい。</li> <li>・傾斜センサーや振動センサーの値と気象庁データとの差異を認識し、きめ細かな定量的な指標を地域まちづくり情報として提供する。画一的に区域指定された土砂災害警戒区域等の指定基準の一助となればと考える。</li> <li>・親世代と子世代が同じ地域で暮らす街、子世代が独立し家庭をこの地域に求めたいと思える街、昔を懐かしみながらも時代に合った利便性や合理性を享受出来る街、自然に新旧の世代や転入世帯が溶け込み、みんなが助け合える相互扶助の街を目指したい。</li> <li>・多様化・多世代化した時代、身近な地域活動（ブルーベリーやみかんの収穫）や遊びを通して思いやり、包容力を地域で育てたい。</li> <li>・横浜市内には土砂災害警戒区域が3271箇所報告されている。これは全国平均の約60倍です。大規模開発造成地や同様の地質（野島層）にセンサーを設置することで地域が守られていると考え安心する。また、モニタリング値の機能を活用し豪雨や地震時に情報連携することで地域減災に結び付け、地域まちづくりの合理的発展に寄与し安全な地域に繋がると考えます。</li> </ul>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



# 位置図



出典：大道中学校

出典：GoogleMap

# 計画平面図

駐車場

子どもの遊び場

。標高27.9m 既設土間改修階段化



。標高23.9m

側溝整備12.0m

小段園路整備 16.0m

自治会館

かまどベンチ

標高25.3m

園路整備 15.0m

既設階段補修 (3段補足)

手摺一部撤去

側溝整備 31.0m

つづら折り園路整備-1 23.0m

つづら折り園路整備-2 10.0m

既設小段園路整備 20.0m

参考縮尺 1:150

のぼる

雨水土留めM40 6.0m

標高14.4m

# 計画平面図

湧水誘導

湧水箇所整備

湧水一時貯留

「知ることで安心こどもの遊び場と防災」



# 知ることで安心 子どもの遊び場と防災

## 完成 予想図



ブルーベリーの丘は、子どもたちの自主性で自らルールを決めて遊び学びます。



# ヨコハマ市民まち普請事業

## 想定整備費用内訳書

### ※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加（費用又は労力の負担等）
既設整備					
側溝整備	U240グレーチング並目	12.0m	9,060		DIY工事
小段園路整備	松板H200土留め整地	16.0m	9,700	155,200	
小計				155,200	
会館横出入口整備					
	既設擁壁撤去	1箇所	43,200	43,200	
	同上発生材運搬費	1式	10,800	10,800	
(産廃)	同上発生材処分費	1式	12,000	12,000	
階段部までの園路整備	松板H200土留め整地	15.0m	9,700	145,500	
かまどベンチ		1基	91,200	91,200	
周辺整備		1式	142,800	142,800	
小計				445,500	
中間園路整備					
つづら園路-1	松板H200土留め整地	23.0m	9,700	223,100	
つづら園路-2	松板H200土留め整地	10.0m	9,700	97,000	
小段園路整備	松板H200土留め整地	20.0m	9,700	194,000	
側溝整備	U240グレーチング並目	31.0m	9,060		DIY工事
擬木階段据直	不足階段補充3段	20.0段	6,040	120,800	
手摺開口処理		1.0箇所	10,800	10,800	
小計				645,700	

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加（費用又は労力の負担等）
湧水箇所整備					
土工事	掘削W0.4×H0.8×L8.0m	2.6m <sup>3</sup>	49,850	129,610	地域有志？
発生土小運搬	園路整備箇所不足箇所へ	1.0m <sup>3</sup>	86,400		地域有志
発生土搬出	会館横入口	1.6m <sup>3</sup>	27,000		地域有志
運搬工	会館横入口	1.0回	10,800		地域有志
発生土処理工	会館横入口	2.0m <sup>3</sup>	11,520		地域有志
土留め工事	H450擬木板厚80杭Φ120 鋼管入り	6.0m	119,760	718,560	
湧水誘導		1.0式	84,000	84,000	
湧水一時貯留	貯留池カムィューズ <sup>®</sup>	1.0箇所	130,500	130,500	
側溝整備	U240グレーチング <sup>®</sup> 並目	12.0m	9,060		DIY工事
小計				1,062,670	
諸経費				761,993	
小計				761,993	
値引き 小計				△71,063	
計				3,000,000	
消費税				300,000	
	計-1			3,300,000	造園整備
DIY工事					
	U240グレーチング <sup>®</sup> 並目	1.0式	3,840	211,200	送料別
	センサーベンチロープ <sup>®</sup> 苗木看板他	1.0式		99,300	
	モニターセット、ラック他	1.0式		85,000	
計				395,500	
消費税				39,500	
	計-2			435,000	DIY
センサー工事					
	準備作業費	1.0式		82,750	
	設置作業費	1.0式		0	含む
	計測器及び伝送装置	1.0式		941,000	
	材料費	1.0式		39,600	
	諸経費	1.0式		86,650	システムサーバー
計				1,150,000	
消費税				115,000	
	計-3			1,265,000	センサー
	合計			5,000,000	

## 1 次コンテスト以降の活動内容(知ることで安心子どもの遊び場と防災)

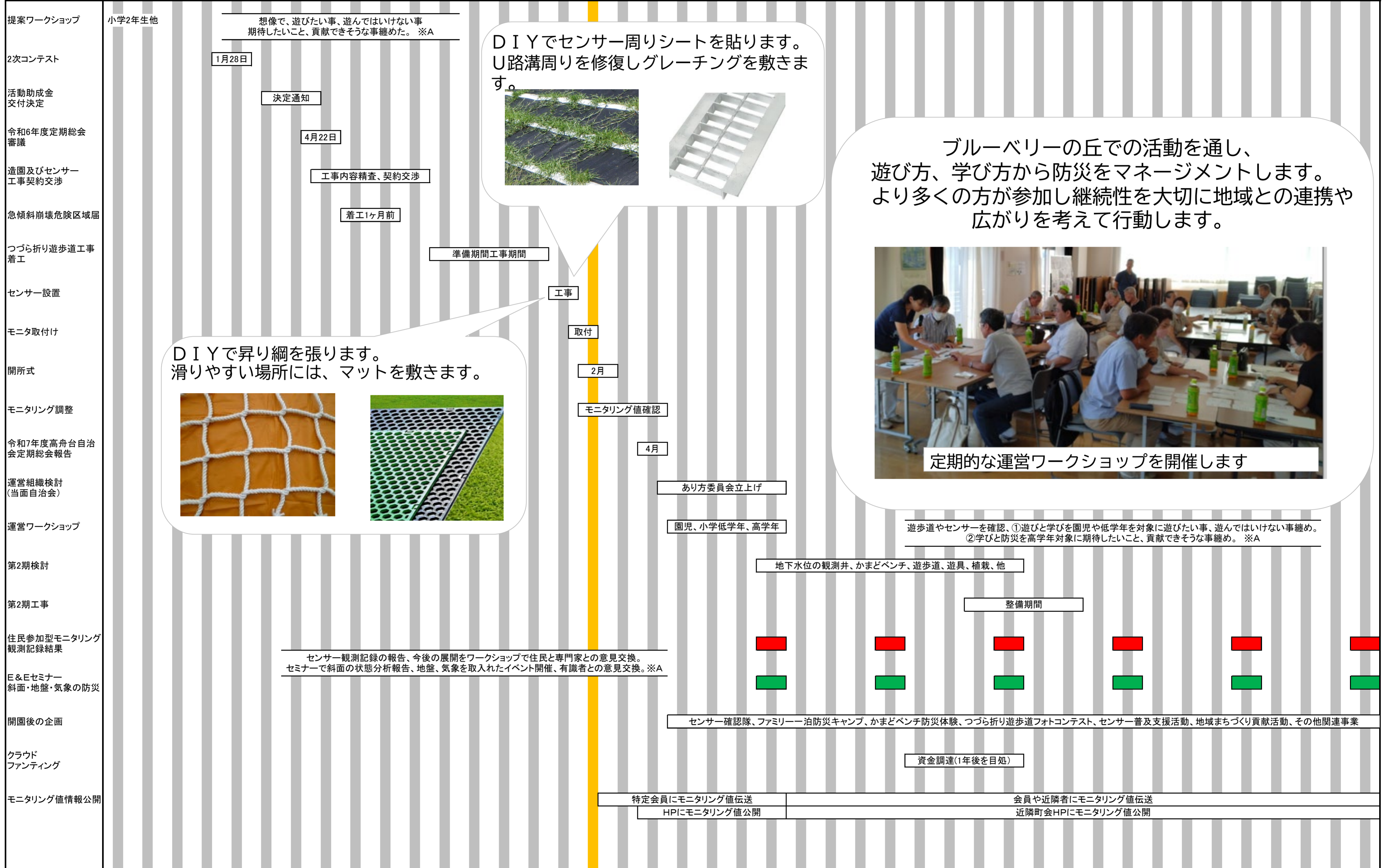
月 日	活動内容	備考
7月23日	定例7月度理事会審査報告、2次コンテスト応募の審議承認を得る。	
7月29日	造園業者と“つづら折り遊歩道”の整備について意見交換をした。 A案(コンテスト)B案(既存出入口)C案(コスト削減)の図面作成を依頼した。既存階段の一部整備の必要性を指摘された。	
8月5日	活動助成金の申請・請求等、全メンバーから権限委任の承認を得る。	
8月6日	協力団体ふくしの会(びよびよキッズ)に1次コンテストのプレゼンと2次コンテスト応募了解と応援賛同を得る。協力団体松寿会9月17日実施。	
8月17日	まち普請事業2次コンテストに向け、第1回全体会議を開催、スケジュール感と役割担当を確認した。	
8月22日	令和4年度まち普請事業見学会参加、地域への発展性・継続性について確認した。事例の直接焼き写し導入は慎重に検討が必要と判断した。	
8月31日	造園業者案を踏まえBC案併用と既存活用、コスト削減で検討する。	
9月4日	急傾斜地崩壊危険区域に隣接する工事について、神奈川県横浜治水事務所に確認した。離隔を1m以上、工事着工前届出とする。	
9月11日	本提案は宅地造成等規制法第8条宅地造成(土砂災害警戒特別区域)に該当しないことを横浜市建築局と確認した。	
9月16日	定例9月度地区長会に1次コンテスト内容をプレゼン、2次コンテスト応募の審議承認を得る。	
9月18日	近隣住民にポスティングした。会員を含めプレゼンし、提案の背景、センサー設置効果等を説明、2次コンテストを行なう事を報告した。後日、補足資料を近隣住民にポスティングし隣の大田町内会長に報告した。	
9月18日	第2回、会員や協力者を交え、個人ワークと団体ワークを組合せワークショップ開催、ネガティブ(ポジティブ)な遊び学びを整理した。16名参加。	一覧A
9月23日	活動懇談会に参加、貴重なご意見を伺った。将来に向かい新たなデータで擁壁や法面の安全度を確認する事が得策、とのアドバイスを得た。	
9月25日	まち探検の一環で小学2年生60名に法面(斜面)見学や提案イメージ図を説明し“遊んではいけないこと”と“遊びたいこと”の意見をカードで纏めた。基本ほぼ同じ「走りたい」「動きたい」「ふざけたい」でした。	一覧B
10月9日	第3回、第2回ワークで纏めた遊び学び一覧と小学2年の「遊びたい」「遊んではいけない」を透かし整理した。子どもが自ら遊びのルールを作る。	一覧C
10月23日	09年度選考の“さくら茶屋”を訪問し意見交換した。今では、自治会の理解を得て相互協力に進め一部を補完し合っている。将来工事の考え方。	
10月26日	未就学から小6年が集まるハロウィンで遊びと学び、遊びと防災について意見をカードで纏めた。	一覧D
11月1日	E&Eセミナー開催、擁壁や斜面の巡検・講演、ワークショップで地域の発展性を地域住民・行政・有識者の立場に分かれ、期待したいこと・貢献できそうなことを48名で纏めた。	一覧E
11月9日	子どもの遊びや学び(防災)について、市大学院三輪教授を訪問、子どもの行動や接し方の助言と整備後のマネージメントが大切との助言を頂いた。	
11月13日	六浦西地区町内連合(19)研修会で、遊歩道とセンサーの設置、植樹で地域の安心を得る“知ることで安心子どもの遊び場と防災”の講演した。	

・備考欄は添付資料とした。

# その他資料 活動スケジュール

提案名称	知ることので安心子どもの遊び場と防災	工事着工予定日(仮定)	令和 6 年 9 月 1 日	概要	つづら折り遊歩道施工とセンサー設置工事	ブルーベリーの丘を考える会
提案場所	横浜市金沢区高舟台1-31-22外	工事完了予定日(仮定)	令和 7 年 2 月 15 日		作成日 2023年11月29日	

項目	2023年			2024年												2025年				2026年				2027年				2028年				2029年				2030年			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	第三	第四	第一	第二	第三	第四	第一	第二	第三	第四	第一	第二	第三	第四	第一	第二	第三	第四



※ ブルーベリーの丘利用は自治会館の開館時間に準じます。但し、申し出制で立入とします。入場者には遊びのルールを選択を求めます。  
 ※ 雨天・強風等悪天候の場合、全て入場をお断りします。  
 ※ 当該活動(運営)は令和6年度の定期総会において、審議事項となります。その後の運営は自治会会則に準じます。

※Aは期間を表していません。項目の補足説明です



# 【任意】その他資料 遊び・学び・防災ワークショップ活動

## 個人ワークとグループワークを併用し遊び学びを考える令和5年9月18日

	① (法面を想像してください)	② (①を通して遊びを想像してください)	③ (②を通して学びを想像してください)
ポジティブ	子供が遊ぶ遊び場ができる 景色が良い 植木・散歩 景観が良い 坂道 植木	逃走中(かけっこ) 綱ネット登り 芝滑り ドッグラ フォトスポ ランチ 昆虫採集 ローラー滑り台 トレンジャーハンティング グランピング フィールドアスレチック ワイヤーターザンロープ イルミネーションクリスマス テラス・くつろぎ・カフェ BBQ	危険を学ぶ 危険防止(滑らない) 体力UP(健康を学ぶ) ゲームを離れ自然(草花)に親しむ 体を動かすことの大切さ 地形・鳥(自然)
Aチーム			
ネガティブ	管理が大変 危ない・足がすくむ 法面崩壊 法面崩壊(安全性) 管理 危険 足がすくむ		坂の特長 自然・虫・昆虫 植物を学ぶ 坂の魅力・危なさ 憩いの重要性 重力・衝突力・衝撃力
Bチーム			
ポジティブ	滑って面白い 開放的 楽しく滑り台の道具が作れるとよい 多様な活動	長い滑り台楽しい 休憩広場でおしゃべり そりすべり 壁面(斜面)登り ローラー滑り台 坂登り(綱登り) すべり台	助けの求め方 危険予知の大切さ 相手に思いやり 楽しいこと、こうすれば危ない けがしたら⇒どうなる 怪我をして痛さを知る 体の成長
Cチーム			
ネガティブ	滑る危険		

### 一覧A：ネガティブ(ポジ)遊び学び大人目線は景観・危険、滑る登る、体験

	① (法面を想像してください)	② (①を通して遊びを想像してください)	③ (②を通して学びを想像してください)
ポジティブ	すべり台 日当たりが良いので気持ち良い すべり台 ブルーベリーが食べられる	アスレチック(ターザンネット) 虫取り 登り下りで足が鍛えられる すべり台 ブルーベリーの実が取れる 袋で滑る(そり) 水路をつくって葉っぱの舟流し 綱登り網下り	体力を付ける必要が学べる 思いっきり高いところから下に滑る楽しさ 里山の形態 どこに手を掛け足を掛ければ上手に登れるか考えて遊ぶ 転がらないように気を付けて遊ぶ 痛いということする傷ができないように注意して遊ぶ 安全な坂の登り方 防災の大切さを学ぶ 生物の多様性が学べる 自然観察や生き物の大切さを学ぶ
Cチーム			
ネガティブ	地すべり 急傾斜地の為危険 水が出ている(滑る) 土砂災害警戒区域	土砂災害⇒防災教育 水が多い(出ている)⇒ピオト 鬼ごっこするには危ない 転がってしまう すり傷ができる 転がり落ちる恐れ 砂か水せき止める・流す	斜面を登るのはきつい 上から下に向かう 斜面は楽しい 転がる 動物による害 崖の危険性
Dチーム			
ポジティブ	子供が遊べる 危険を経験したくまじい子供に 緑が多い 自然	池に魚類を育て水の变化を観察災害を意識 テーブル設置して講習会開催 参加者が少なく継続性に不安 自然に触れる 子供が遊ぶ 草すべり(危険) 虫取り	協調 競争意識 自然観察・虫採集 草採集・首飾り 果実採集 草木の成長観察 防災意識を含め自然を理解し生きることを学ぶ

## ハロウィンの子どもたち(年少～小学校6年生) 令和5年10月26日(木)

① どんな遊びがしてみたい?	② ルールを作ってみよう	③ 防災と聞いて何をイメージする?
芝滑り × 2名	押さない × 2名	地震、守る
ローラーすべり台	押さない、はしらない	机に隠れたり、窓を開ける
ローラー滑り台	ぶつからない	ヘルメット × 2名
すべりたい	なぐらない	じぶんじしんをまもること
一番下まで滑りたい	けらない	
安全で長い滑り台	たたかない	
ロープのぼり	走らない × 4名	
ターザンロープ	投げない × 4名	
ブランコ × 2名	いしやものをなげない	
高いブランコを造りたい	なかよくする	ハロウィンでのアンケート
おにごっこ × 4名	みんなでなかよくする	を送付させていただきました
サッカー × 6名	押さないで、安全にルールを守ってあそぶ	す。川村
かわりおに	周りを見て	
かくれんぼ × 2名	うるさくしない	
みんなでおにごっこをしたい	ロープのぼりはひとりずつ	遊びに関しては、ハチャメチャな答えもたくさんありました。防災に関しては、手が止まって書かずじ終わってしまう子どもも多かったです。大人数でアンケートをする難しさを感じました...
はしってあそぶ	参加者人数	
アスレチック	学年 人数	
わなげ	年中以下 11	
かにつり × 2名	年長 7	
みかんがり	1年生 10	
フルーツばたけ	2年生 6	
コーヒークップ × 2名	3年生 14	
トリックオアトリート	4年生 4	
ものまね	5年生 1	
	6年生 10	
	合計 63	

### 一覧D：ロープ昇り

## 小学2年生の創造 令和5年9月25日 晴れ

自治会館1階南面の斜面を見ながらC室から入館、2階でまち普請事業の全体イラストを説明し創造を描いた	斜面で遊んではいけないこと	斜面で遊んでみたいこと
勝手にどこかにいかない	ブルーベリーの木であそびたい	
森に入らない	花草かんさつ	
森の中で遊んじゃいけない	お花や実を見つける	
遊ばない	ここの中をみたい	
道では遊ばない	みんなで仲良く行く	
花のところで遊んではいけない	歩いて隠れ鬼 × 2名	
花が咲いている場所は遊ばない	歩いて遊ぶ	
花を抜かない	公園で遊びたい	
木登りや花を抜かない	かまどベンチで遊んでみたい	
斜面でふざけない	階段に昇ってみたいです	
ふざけない × 2名	そり	
木登りダメ	かくれんぼ	
木登りや果実を採る	探検ごっこ	
カニを怒らせない	鬼ごっこ × 2名	
虫取り(絵)	水遊び・鬼ごっこ	
鬼ごっこ × 7名	水遊び	
階段で鬼ごっこ	カニ(絵)	
鬼ごっこやかくれんぼ	カニ釣り	
走って鬼ごっこしたり	カニとのふれあい	
鬼ごっこやドッジボール	カニと遊ぶ	
キャッチボール	長い滑り台	
ボール遊び	滑り台で遊ぶ	
走らない × 4名	ブランコで遊ぶ	
走り回らない	しりとり	
追いかけて		
走ってはいけない		
階段で追いかけて		

### 一覧B：遊んではいけない事、遊びたい事

人に気をつける			
たちしよんしない			



## 子どもの遊びと学びからルールづくりと防災に繋げる 令和5年10月9日

1 ルールづくりを学ぶ	2 防災に繋げる
法面で遊ぶルール作りを子どもにつくらせる	自治会館を避難場所として宿泊体験(区役所との連携)
子供でルールをつくる	集会場の利用を活用する(朝起きて見える体験を企画する)
子どもによる自主ルール作り	備蓄物で料理する
子供達がルールを決める	かまどベンチで炊き出しや防災食を食べるなど法面で経験をさせたい
防災の行動は自分の事は自分で考える	学びとして、備蓄している防災用具の体験や道具を使う。被災地(災害場所)を想定し丸太道をつくる。
遊ぶ前に注意点を全員で確認する(危険予知活動(KYK))	子供達が見られるように高舟台地震計(小さい動き)と気象庁が公表した震計をモニターに並べる
法面では人を押さない	設置する予定の会館のモニターを使って、今週の地震回数など表示しては。警察署の前にある事故件数表示の様に。
押さない × 2名	雨の翌日では、いつもと違う斜面や木や池を見て、何かを感じてもらおう(遊び方も変わるかもしれない)
友達を押さない	坂(斜面)を登る経験を繰返して、歩き難い所を少しでも速く、簡単に歩いたり登ったりする方法を身につける
	防災用具を使ってみる。防災ロープを下ろして実際に降りてみるなど、丸太だけの道を通るなど、体験型の場所を!
ふざけて友達を押さない	上手に昇り下りが出来る様に、こっそり避難訓練
	何故センサーが置かれているか、どのように役に立っているか、メールを配信の際に防災高舟を同時配信し関心を高めてもらう
	よりリアルに防災の時の行動を学んでいただければ良い(マニュアルではない現実的な訓練や学びが出来ると良い)
坂道では危ないので押し合わない	子ども向け最低何が必要か、発災時の心構え、災害時の注意点を話す(発災時、3日後、7日後、1ヶ月後、3ヶ月後)
走らないでください	子供向けに災害時のレクチャーをして!。家で一人で居る時や、登下校時などに災害に遭遇、どうしたら良いか知らない子供が多いと思う。地域に特化した災害時の対応方法などを伝えて欲しい
走り回らない(怪我防止)	悪ふざけをしない
	足元に注意する
	崖に入らない
	ものを投げない
	ケガをしても自己責任
	法面にいるとき割れ(地震)を感じたらどのような行動をするか、とるか学ぶ
	傾斜面前で遊ぶ前に会館及び広場で子ども向け講習会(災害時の心構えを勉強する)
	斜面に水を流すと地すべりを起こす、乾いた砂で液状化の実験器具(施設)をみせ防災に繋げる(都度テーマを変えて)実験施設をつくる
	高さを利用した遊びが出来そう。高低差の有効利用(三角測量、起重機、日時計)
	法面に井戸を掘り、地下の変動は水の変化で判る。被災時の水活用を兼ねる(将来的に検討)
	崖崩れを起さないようにする(土を掘ったりしない)
	防災をゲームでも料理でも継続的にリーダーがやろうという心構えが大切です。

### 一覧C：遊びはルールを!、その場にあった行動を!

## 【任意】E&Eセミナー：地域の発展性について 令和5年11月1日

立場	期待したいこと	貢献できそうなこと
地域住民A	親子で楽しめる居場所シニア世代も一緒に楽しくできれば良いと思います ブルーベリーの丘の傾斜が強く安全性を確保して遊べる用に注意が必要 多くの斜面地を合理的に測定 子供達が学校から帰って友達と楽しく遊べる場所 取り組みが他に展開していくこと	①ブルーベリー等、を掴み家族で楽しめる場の提供、 ②急斜面のブルーベリーの丘で斜面を登り降りする時に注意する体験、 ③斜面の成り立ちや、防災上重要であることを学べる 自治会館を利用し防災関連メニューを作り宿泊、食事、想定される行動を考える 利害が対立し易い崖(擁壁)の上と下の方が一同に会していることが素晴らしい 他の公園と違うものができた→フルーツもある、防災も知る一斜面で遊べるイベント、会報などで周囲に伝える 子供達が日常的に集まれる場所になるといい→ここが発信場所になると 専門家の人たちには、定期的にワークショップを開いてほしい→貢献：防災の知識、危機感を共有する出発点になれる 子供を巻き込むことが大事、それが始まっている
地域住民D	土地の所有権上の問題から複雑化している。隣地住民(下側) 擁壁を清掃で理解を深めてもらう 斜面が得意の造園業	一般のかたに対する回答として現在の擁壁や法面の安全性の認識を平時は何ら問題ない。但し、一定以上の地震や降水量の場合有事・異常時には何らかの対応が必要 コーディネーター 平方向は問題)水が常時出て
行政・まちづくりE	継続して管理利用、維持してほしい 防災や維持管理の主体を国が考える上でモデルケースとなる可能性がある 防災や子育てが別々問題ではなく、一緒に進めていく地域づくりの事例となっていく	アナウンスの方法として擁壁は現在は問題ないことを周知する。傾斜角度30度も何ら問題ない角度である。 専門家として講演や知識を伝えるべく 行政の担当部署を紹介する、繋ぐ 補助金制度を作る
専門家(地質・地盤)F	子供が楽しめる場である、同時に子供や親が防災のことも考え学べる場となる(防災の視点からその場にセンサーを設置するだけでなく常に誰かが見ることが重要) 住民と企業が直接契約する事例がめづらしい フレキシブルに使える補助金(地区に必要なものが整備できない) 防災井戸が掘れなかった	センサーの普及啓発いろんな商品、サービスとして広く流通してほしい 不適確擁壁の相続(昭和40年代) 時価評価が難しい 専門家のワードが難しかった。住民は理解できなかった(これザストレス?) 大手デベロッパの開発許可は厳しいが地元企業の開発許可は甘い(行政指導、政治家)
専門家(地質・地盤)G	参加意識、費用の負担 子どもの防災意識の向上	傾斜計設置100万円/年(管理)?? ブルーベリー収穫祭 おまつり(夏祭りの代わり)、食べ物ゲーム 小学生未満の子どもを連れてくるママさんの場 危機管理の視点を取り入れた事業に 第三者的機関のもっとパワーを!! 傾斜の利用法専門家の目から見て 防災教育の実施(出前教育授業)

### 一覧E：防災は総合、セミナーを継続

2次コンテスト事前質問集

【提案グループ名】 ブルーベリーの丘を考える会	
事前質問	回答欄
朝比奈委員	
① センサーを活用した遠隔監視システムについて教えてください。モニタリング値とは何のどんな数値か、誰にいつデータが送信されるのかなど。	<p>モニタリング値は、斜面の微小な変状を示す傾斜角データ、雨量データと、地震時の揺れの大きさを示す震度データになります。一般の方も理解出来る単純明快な内容とします。</p> <p>常時インターネット（HP）を通じてモニタリング値をいつでも確認することができます。また、これまでの実績から設定した管理基準値を超えた場合は、登録した地域住民にメールでモニタリング値と下記メッセージを送信します。</p> <p>基準①：今後の状況を見守ってください。                  基準②：避難の準備を始めてください。基準③：避難を開始してください。</p>
② 盛土の造成史や地形・地質等の看板とは具体的にどんな内容ですか？	<p>当地斜面や擁壁について知っていただき、理解が深まるように、コンテンツとして、次のような内容が考えられます。周辺の地質図（自然地盤、人工地盤・盛土の特徴）、野島層（大道中学校正門に掲示）大規模盛土分布図、造成時の写真と施工方法、盛土の推定断面（宅地カルテより）、ボーリング柱状図・擁壁の構造（横浜市から提供が前提）、地下水位と水質（将来）、モニタリングの概要。掲示場所はHPや会館の壁面等が考えられます。2次元コードの活用も視野に内容は検討します。</p>
③ 遊歩道は申込制と記載がありました。開設の時間帯や頻度、常駐するのかなど日常的な運営や安全管理の方法について教えてください。	<p>当面火曜日と土曜日 10時から16時とします。会館には9時から17時まで当番がいます。午前と午後に当番が入れ替りますので、その際に見回りを行いません。出入口はモニターで確認します。雨降りや風が強い日は開放しません。例えば出入口の看板に、「おやくそく」①おさない！</p>

	<p>②はしらない！③このせんよりひくいおともだちはおうちの方と一緒に！④何かあったら事務所に！の看板を検討します。</p> <p>遊びの内容やルールは(ワークショップで方向性)自ら選択「申込」を考えています。遊歩道の入口には施錠があります。</p>
④ 上記に関連し、遊び場のリスクマネジメントを組織としてどう考えていますか。	<p>会館には、AEDや電話や監視カメラが備えられ常駐当番もいます。万が一緊急事態が起きた場合、速やかに応急対応、緊急通報や当該家族に連絡、学校関係者及び理事等グループLINE報告は可能と考えています。</p> <p>ブルーベリーの丘に過失があつて事故が起きた場合は、施設賠償責任保険の対象となります。</p>
植松委員	
① 先般の視察の際、改めてかなりの傾斜地であることを実感いたしました。子ども達にはとてもわくわくする地形と思いますが、登り縄はどの辺りに設置する予定でしょうか。ビオトープとの位置関係はどんな感じでしょうか。	<p>場所は南側標高 16m前後の一番下段から20m程度登るとしてあります。但し、作りながらDIYで対象年齢を考慮してマネジメントも考えます。</p> <p>ビオトープは、県横浜治水事務所と相談し許可を得ますが、急傾斜地崩壊危険区域の擁壁(金沢 78)から離隔 1m以上の標高 15m前後で西端部となります。</p> <p>傾斜角度30度は成人男性の目線で37度となり、グループワークで滑るより登る遊びが良いとの意見が多数でした。</p>
② モニター監視は、子ども達の防災意識啓発に役立ちそうでしょうか。活用の見通しを教えてください。	<p>モニター値を観察し、例えば夏休みの宿題に活用する事で、子供の夢はわくわくすると考えています。また、センサー値(傾斜センサーと振動センサー)と気象庁震度と差が生じたとき、どうしてと疑問に思い考え地質の違いや地盤強度に興味を示す。親子の会話がひとつ増えることで防災・減災を考え学ぶ。将来、防災・減災工学を志すかもしれません。</p>
③ かまどベンチはその周辺に、炭の仕度、薪の仕度、水の仕度などある程度の広さが必要です。傾斜地との間にフェンスを設けるなどしないと危険な場合がありますが、周辺の設えについて教えてください。	<p>かまどベンチから北東に倉庫があります。その横に剪定枝や薪は常時備蓄してあります。水道は、自治会館の玄関脇に水道栓があります。最下段擁壁の上部にRC塀 1.2m高さ 0.2m幅があります。</p> <p>フェンスは、運営後マネジメントの中で検討すべきと考えています。</p>
川原委員	
① 現在提案書に書かれている安全性は、地震災害時や大雨時の立ち入り禁止か	<p>安全に対する考え方として、リスクマネジメントや事業規模から考えています。</p>

<p>どうかを判断するという意味での安全性であり、平時の遊び場利用における安全性の視点が弱いと感じます。施設内の怪我や事故は自己責任という方針だとしても、一般開放するのであれば、ランドスケープの専門家の助言を得て、階段など最低限の施設の安全性の確保のための整備が十分かを検討しているか知りたいです。現在、検討されている専門家とは、法面崩落や地質面の専門家というように思われ、子どもの遊び場という視点からの安全性が不足していませんか。</p> <p>例えば、既存の階段やこれから整備しようというものもDIYによる整備のように思われます。滑りやすさなど安全性や利用頻度が高まることによる劣化対応など、DIY整備であっても強度や経年劣化対応などの性能がどう担保されるのかが知りたいです。</p>	<p>また、子供の成長や親の想い、誰もが安心地域の安全を考えています。依ってリスクやちょっとした危険はあります。如何にして危険を減じる遊びを学ぶか考え創造することを期待しています。</p> <p>横浜市の防災・減災推進研修を学ぶ機会がありました。四万十町の“本気の避難訓練から学ぶ”は、想定される津波は最短で15分、最大31mに備え避難場所まで10分以内で駆け登る事例紹介でした。目的は“考える力を養う”いかなる場所いかなる時間でも身を守る術を身につけ生き延びるかです。その為には、街を知り・危険を学ぶでした。如何なる場合に於いても自ら身を守る事を幼い時から学んで欲しいと考え、施設整備や運営を提案しました。DIYの目的は、身近な遊び場を一緒に作るプロセスを大切にすることです。都会の子供の遊び場には、近所の道路や広場、公園です。全てに於いて、親は子供に付き添っているわけではありません。子供の成長と共に危険予知を自ら学び考えた遊びや行動を育み育てる事を必要と考えています。施設整備を目的にした事業でないと捉えています。状況に即したマネジメントで施設運営を行なっていきます。</p>
<p>② 運用ルールとハード整備内容は強く関係するので、運用ルールは後から考えるのではなく、整備の内容と合わせて一緒に提案していただきたいです。</p> <p>管理者は入っていい日のルールだけ決めるのか、資料にある「ブルーベリーの丘は、子どもたちの自主性で自らルールを決めて遊ぶ」というのが、プレイリーダーのような大人が見守ることが前提になっているのか、などが知りたいです。</p>	<p>法面で子ども達は、校庭と同じ遊びが出来るとは考えていないことが、グループワークでの結論です。子供は自ら法面でどのような遊びが出来るかを楽しみにしています。最低限のルールは提示したいと考えています。事故が無いようにするにはどうすればよいか子供とその保護者も一緒に考えて行くプロセスを大切に進めていきます。ですから“自主性で自らルールを決めて遊ぶ”としています。グループワークでの遊びは、ゲーム、観察、歩いて隠れ鬼（理解出来ていません）等。当然ですが、未就学児童は手を引きながら保護者同伴で遊ぶと考えています。</p>
<p>後藤委員</p>	
<p>① 子どもが遊ぶ際の安全対策、見守りの体制について教えてください。</p>	<p>最低限のルールは表示します。遊びのルールを自らが選択（例、観察、散策、ゲーム等）しその中で遊ぶことを考えています。監視的な発想は考えていません。会館には当番が常駐し午前と午後入れ替ります。</p>

	そのときに確認を行なうとしています。子ども達は、自らの遊びを通してマネジメントが出来ています。何かあれば報告や連絡にも来ます。喉が渴いたとき水が欲しいトイレにもきます。寄り添う体制を大切に考えています。
② 「モニタリング値はリアルタイムで携帯電話回線を利用して自動的に伝送(標準10分間隔)する。データはグラフ化しインターネット配信する。」このデータは自治会のHPなどから配信されるのでしょうか。	グラフ化したデータの配信は、センサーを提供する中央開発のサーバ上で行いますが、自治会のHPからも閲覧できるようにリンクを貼ります。
杉崎委員	
① おとなでも危険を感じる斜面ですが、子どもたちが遊ぶために確保すべき安全対策について具体的に教えてください。	最低限のルール・お願いは標示します。子どもには遊ぶルールを求めます。例えば3択(観察、散策、ゲーム等(グループワークで遊びやルールを決めます))で選んで、その中で子どもたちは遊びを考え行動します。最初は、厳しめに週2回の開園で進めます。仮に、ルールを無視し走り廻る行動が多いようであれば、ベンチを増やす事や入場時啓発で抑制出来ると考えています。
② センサーの整備、運用に対する地域住民等の具体的な関わり方について教えてください。	通常センサーの維持管理(乾電池交換程度)・運用(モニタリング値の確認)は、地域住民が主体で行います。専門性が高い整備はメーカーに依頼します。
肥後委員	
① 斜面地で子どもたちを遊ばせることの意味を、再度お聞きしたいです。	災害にはルールは有りません。どこにいても被災の危険性があります。グループワークでどこにいても対処できる避難訓練を求められました。遊びを通して防災・減災を学ぶ創造する考える力を養って欲しいと考えました。
② エリアごとに、何人まで使えるかなどのシミュレーションをしていますか。	大人数の方が入場する事は想定していません。時間差で協議するウォークラリーやフォトコンテストとしての活用の話はありました。小学校の課外学習は最大で60名です。その場合も、会館内の見学は2班に分け、ルートを変えて行ないまし
松村委員	
① これまで土砂災害に関して、自治会としてどのような取り組みをしてきましたか。(ハザードマップ、防災マッ	横浜市からの“防災よこはま”、金沢区からの“浸水ハザードマップ”や“防災マップ”を活用し防災講習会や防災フェアで座

<p>プの活用など)</p>	<p>学研修や講師を招き講演を行なっています。法面は年に 3 回の草刈り梅木剪定を行なっています。NHKスペシャルで住民参加型モニタリング団体として放映されました。E&amp;Eセミナーを地盤品質判定士会と協力して地域巡検も行ないました（地質や歴史）。</p>
<p>② 子どもの自主的な遊びや学びを見守り支える体制は、どのように作る予定ですか。</p>	<p>自治会は協力団体と協力し登下校の子供の見守り活動を行なっています。青少年部や六浦西地区町内会連合会にも子供会が存在します。その延長線上に親世代をリーダーとした担い手が参加するイベントを行なっています。今までは個人情報観点から単発的な活動でした。これからは継続的な視点で体制を考えていきます。</p>
<p>③ センサーのモニタリング値を住民が避難に生かすために、どのようなサポートを考えていますか。</p>	<p>センサーは、これまでの斜面監視の実績から 3 段階の管理基準値を装備してします。それらが超えた場合、 1 番目、モニタリング値を注視し今後の状況を見守ります。 2 番目、避難の準備を始めます。 3 番目、避難を開始します。その場合、自主防災組織や地域防災拠点の避難行動に準じた対応となります。</p>
<p>④ 既存のブルーベリー等の果樹は、今後どのように生かしていく予定ですか。</p>	<p>専門家の意見を取入れ苗木の選定を行なっています。子供に直に収穫させるイベントを考えています。</p>
<p>⑤ 自治会の活動量を増やすような取り組みだと思いますが、整備後の活動を継続する工夫について何かお考えですか。</p>	<p>“あり方委員会”として 2025 年中に施設整備後対応する組織を立ち上げます。自治会の理事は約 20 名輪番委員 100 名で自治会は組織しています。また、協力団体を含めますので対応は可能と判断しています。</p>
<p>山田委員</p>	
<p>① 整備後の、傾斜地で遊ぶ子ども達の「遊び」や「学び」に関する継続的なマネジントの計画があれば教えてください。</p>	<p>活動スケジュール提出版に記載しましたが、定期的な運営ワークショップを開催します。その中で、センサー値の解説や地域巡検を行ないます。また、改修も必要に応じ考えていきます。その時代に沿った遊びや学びから防災・減災・未災を考え続ける事を想定しています。</p>

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
- 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
- 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	弘明寺リビングラボ
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	南区中島町4丁目
提案名 (25字以内)	データを活用したまちづくり
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容 <sup>※1</sup> を工夫した点 <sup>※2</sup> にも触れて記入してください) <sup>※1</sup> 施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください <sup>※2</sup> 住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>整備対象施設は、弘明寺商店街から60メートルほどのところにある軽量鉄骨3階建てビルの2階にある賃貸物件(1LDK)で、現在、事務所として使用されている。そこでヘルスケアカフェを開業して、地域住民が自由に立ち寄り集うことができる「まちに開かれたリビングルーム」の様な場所を提供する。</p> <p>整備助成金の対象となる主な箇所は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>部屋の仕切りを撤去する等レイアウトの変更</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カフェの営業や多目的利用を考慮して広々とした空間を確保</li> <li>● 浴室を撤去してキッチンの一部として食器棚等を設置</li> </ul> </li> <li>2. <b>配管工事とフローリングの張り替え</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 玄関と床との段差を解消するのは構造上困難なことから、レイアウト変更に伴う配管工事の後、段差を残したまま床の張り替えを行う。</li> <li>● 災害発生に備えて水や保存食を備蓄できる様、床下の活用を検討</li> </ul> </li> <li>3. <b>天井や壁の塗装や張り替え及び棚や収納の設置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調湿機能がありアレルギーやシックハウス対策にもなる珪藻土の壁を採用して、専門家の指導を受けながらDIYを実施することを検討</li> <li>● 血圧計等の一般検査機器や健康医療関係の本や資料等を並べ、また、小商いスペースとして使用するための棚を設置</li> <li>● 勉強会や講習会用として天井にロールスクリーンを設置</li> </ul> </li> <li>4. <b>キッチン、トイレ、手洗いといった水回りを中心に設備更新</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 清潔感と機能性を重視して経年劣化した設備を更新</li> <li>● カウンターキッチンを採用することでフロア全体の一体感を演出</li> <li>● カウンター部分に古材の一枚板を使い、仲間の棟梁と共にDIYで設置</li> <li>● トイレの横に新たに洗面台とオムツ替え用の台を設置</li> </ul> </li> <li>5. <b>天井の照明(蛍光灯)及びエアコンの交換</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 間接照明や埋め込み式ライトの採用も合わせて検討</li> <li>● 多目的利用を想定した機能性重視のデザインを採用</li> </ul> </li> <li>6. <b>その他デザインへの配慮</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 赤ちゃんや小さなお子さん連れでも安全に安心して過ごせる工夫</li> </ul> </li> </ol>

<p><b>施設の活用・活動内容</b>  (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください)  ※第1次提案書より具体的に記入してください</p>	<p>ヘルスケア(健康・医療)を中心に地域の様々な問題や課題を解決するための活動拠点として整備する。  地域住民に対して提供する具体的なサービスは以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>「主観的な健康感」を高めるための活動</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ヘルスリテラシー(健康や医療に対する正しい情報を入手し、理解して活用する能力)の向上を図るため、専門家を交えて定期的に勉強会や講演会を開催する。</li> <li>② 「医食同源」をコンセプトにした食事会や料理教室(参加人数に応じて大岡地区センターを利用)及び「音楽は心のくすり」をコンセプトにしたサロンコンサート等を開催する。「病気になったら病院に行けばよい」という考えから脱却し、「自分の身体は自分で守る」という意識を高めることで自発的な行動変容につなげる。</li> <li>③ 皆で励まし合い助け合いながら一緒に健康の維持増進に取り組むことにより、途中で脱落することなく生活習慣の改善を目指す。</li> </ol> </li> <li>2. <b>健康サポートプログラムの提供(デジタルとアナログのハイブリッドサービス)</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① デジタルデバイスや健康アプリを使って参加者の健康情報を収集分析し、データを基に保健指導することで生活習慣の改善をサポート</li> <li>② 仲間と一緒に成果を確認しながら取り組むことで飽きずに続けられる様、参加者同士の交流を深めながら継続な利用を図る。</li> </ol> </li> <li>3. <b>食育をはじめ子育て支援のための各種プログラムの提供</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子ども料理教室及び管理栄養士等による栄養学のレクチャー</li> <li>② 子ども朝ごはん食堂</li> <li>③ デジタル技術を使ったお絵描きやものづくり教室</li> <li>④ 語部によるお話会等</li> </ol> </li> <li>4. <b>フレイル予防・見守りサービス(デジタルヘルス)</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① フレイル予防は他の団体と提携して講習会やイベントを開催</li> <li>② 食事や運動健康サポートと同じシステムを使って健康状態を常にモニタリングすることで、異常発生時に速やかに対応</li> </ol> </li> </ol> <p>様々な活動を通じて参加者同士の交流を重ねることにより自然発生的にグループが形成され、新たな活動へと発展していくことを期待している。</p>
<p><b>提案の背景</b>  (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)  ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>様々な知識、経験、スキルやアイデアを持ったシニアの力を地域の課題解決に活かさないかと考え、弘明寺リビングラボを立ち上げた。子育て支援から在宅介護まで地域が抱える様々な問題や課題を解決すべく、「地域ネットワークを基盤とするエコシステムの構築」を目指している。</p> <p>弘明寺には横浜で最古の弘明寺観音やかつて東洋一と言われた商店街があり、また横浜国大を中心に文教地区として発展してきた歴史や文化が今も色濃く残っている。若い世代にも積極的に参加を呼びかけ、弘明寺の新たな魅力を発信していければと思っている。</p> <p>なお、「ネットワークを基盤とするエコシステム」とは、対面式のアナログとデジタル技術を組み合わせたハイブリッドサービスを指し、弘明寺リビングラボが提案する「データを活用したまちづくり」を補完するために付け加えた。</p>
<p><b>整備プロセス</b>  (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源<sup>注4)</sup>、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>2次コンテスト終了後に賃貸契約を交わし、4月開業を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 弘明寺リビングラボの運営委員会メンバー(15名)で協議し、役割分担</li> <li>2. サポーターを募集し、その中からプロボノ人材を発掘して組織化</li> <li>3. 設計施工は地元の工務店を選定する一方、地元在住で経験豊富な棟梁の指導を受けながら仲間と一緒にDIYを実施することで費用削減を図る。</li> <li>4. 施設利用規則を制定して、会員制による施設利用の推進を図る。</li> <li>5. 当面必要な資金は、個人からの出資やクラウドファンディングの活用他、日本政策金融公庫からの融資も合わせて検討する。</li> </ol>



<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>【スタッフ】当面は運営委員会メンバーやサポーター等のボランティアに頼らざるを得ないが、法人化することにより他の活動助成金を申請し、事業拡大を図る等、スタッフに賃金を支給できる様、経営の強化安定を図る。  【運営費】カフェの営業やイベント開催による収入の他、会員に対して施設の時間貸しや棚貸し、さらに近隣住民にリモートワークの場所を提供する等、安定した収入源を確保する。  【食材の調達】カフェや料理教室で使用する食材は、地元の商店での調達を心がけることで一層の連携強化を図る。  【情報発信】URLを立ち上げてカフェの活動紹介や各種イベントの開催案内を行い、SNSを活用して会員との情報交換を行う。</p>
--	--

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料(任意様式)に記入してください</p>	<p>1. 弘明寺リビングラボ運営委員会を発足し会則を制定  2. 商店街や周辺の店舗、地区センターや地域ケアプラザ、小学校をはじめとする教育機関と協議を重ね、問題や課題の把握に努め連携強化を図った。  3. 料理教室やジャズライブを開催して弘明寺リビングラボの知名度アップを図ると共にアンケート調査を実施し、今後活動を展開するためのノウハウの取得に努めた。</p>
<p>関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください)</p>	<p>整備対象施設のオーナーとは、こちらの事情をご理解頂いた上で、2次コンテストが終了するまで賃貸契約の締結を待つて頂くことで合意した。  また、近隣住民や店舗並びに自治会や商店街等各種団体との合意形成については、ヘルスケアカフェ開設の経緯や目的を「趣意書」にまとめ、それを手分けして配布しながら説明し、了解頂いている。  大岡地区センターや大岡地域ケアプラザとは、これまでもイベント開催でご協力頂いており、今後一層の連携強化を図ることにしている。  さらに、本大岡地区社会福祉協議会にも説明し、今後連携していくことで合意している。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>弘明寺リビングラボが提案している「データを活用したまちづくり」の根幹にあるものは、「周辺地域に於いてヘルスケア(健康医療)を中心に地域の課題を解決し、地域住民が安心して快適に暮らせるまちづくり」であり、そのことは、「弘明寺リビングラボ会則」第3条(目的)に明文化されている。  従って、データの活用はあくまでも手段であり、目的ではないことをご理解願いたい。</p>
<p>目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)</p>	<p>先に述べた通り、弘明寺には横浜最古の弘明寺観音や約300メートルのアーケード商店街のみならず、横浜国大を中心に文教地区として発展してきた歴史と文化が今も色濃く残っている。弘明寺リビングラボがこのまちの貴重なインフラや優れた利便性を活かしつつ、「医食同源」や「音楽は心のくすり」というコンセプトを掲げて様々な活動を展開することで、一人ひとりの顔や個性が見える地域ネットワークを構築し、地域住民同士がお互い協力し合い助け合いながら、より安心して安全なまちづくりを目指す。  そうした活動を企画提案し、地域住民と共に推進していくための活動拠点が「ヘルスケアカフェ」であることをご理解願いたい。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

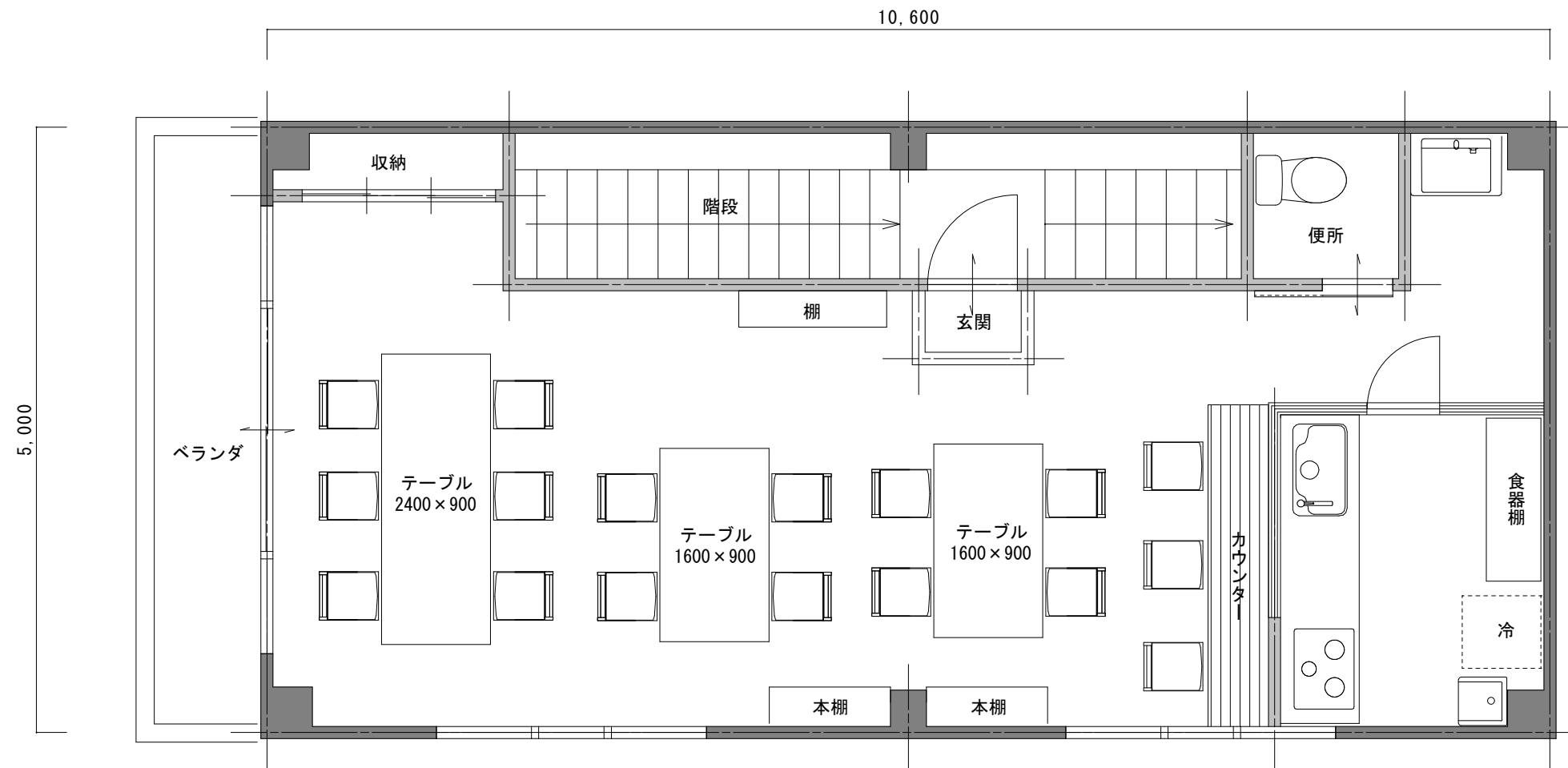
- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



位置図 (弘明寺LL)

(注) iマッピーより引用

# 平面図



備考	2023年11月27日	件名	図面名	縮尺	図面番号
	49		平面図 (計画案)	S=1/50	

# 完成予想図



備考	2023年11月27日	件名	図面名	縮尺	図面番号
	50		イメージパース	S=1/50	

## ヨコハマ市民まち普請事業

### 想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
仮設・付帯工事	解体、養生、 廃材処分	一式		600,000	
木工事	壁床等の基礎 工事	一式		700,000	
キッチン工事		一式		1,350,000	
建具工事	棚、収納等	一式		400,000	
仕上げ工事		一式		500,000	DIYにより塗装 3人 X 2日
電気工事		一式		250,000	
設備工事	ガス、水道管 等の敷設工事	一式		400,000	
エアコン交換 工事		一式		250,000	
その他諸経費		一式		600,000	
固定家具類	カウンター等			300,000	DIYにより製作 2人 X 3日
合 計				5,350,000	

## 1次コンテスト以降の活動内容

- 7月29日 弘明寺リビングラボ運営委員会の設立  
弘明寺リビングラボ会則（案）を提案
- 8月4日 早稲田大学副総長で「医学を基礎とするまちづくり研所」所長と面談し意見聴取
- 8月9日 製薬関係の会合に出席し、地域医療のあり方について意見交換
- 8月19日 運営委員会分科会を開催し、「ヘルスケアカフェ」に看板を掛け替えることで合意
- 9月2日 運営委員会で弘明寺リビングラボ会則を承認  
料理教室及び音楽イベントに向け各プロジェクトリーダーを選出
- 9月5日 横浜市大附属病院地域連携課副課長と面談し意見聴取
- 9月14日 大岡小学校副校長と面談し意見聴取
- 9月15日 大岡地区センターを訪問し料理教室の定期開催を提案し協力を要請
- 9月22日 大岡小学校栄養教諭並びに養護教諭と面談し、  
児童たちの日頃の食生活等について意見聴取
- 9月23日 横浜市庁舎で開催された活動懇談会に参加（当方参加者5名）
- 9月26日 新潟県長岡市にある越後古材を訪問し、施設整備に使用可能なものがあるかどうか価格を含めて調査
- 9月30日 運営委員会を開催し、料理教室と音楽イベントを開催することを決定
- 10月9日 弘明寺リビングラボのキャラクター（のちにグミちゃんと命名）が完成
- 10月28日 大岡地区センターで料理教室を開催（参加者20名）しアンケート調査を実施  
ジャズライブのポスターを弘明寺商店街入口に掲示し、チラシの配布を開始
- 10月29日 現地視察の際にアントレ・ミュージックサロン&カフェに審査員の方々をお迎えして意見交換  
(ただし、整備対象施設が使用中のため内部見学はできず)
- 11月7日 県立保健福祉大学で開催された神奈川県主催「ME-BY0シンポジウム」に参加  
神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室部長（未病産業担当）や県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科准教授等と意見交換
- 11月8日 丸の内中央法律事務所代表で弘明寺リビングラボの顧問弁護士と弘明寺リビングラボの法人化及びイメージキャラクターの商標登録等について打合せ
- 11月12日 アントレ・ミュージックサロン&カフェにてジャズライブを開催（参加者12名）  
しアンケート調査を実施（ポスターやチラシによる集客効果は期待外れ）
- 11月14日 イメージキャラクターの缶バッジ（300個）と幟（赤と青の2ほん）を製作
- 11月23日 アントレ・ミュージックサロン&カフェの2階（事務所として使用中）が11月末で空くので、そこを賃借することで家主と基本合意
- 11月25日 不動産会社を交えて家主と賃貸契約の時期と内容（家賃等）について打合せ

以上

2次コンテスト事前質問集

【提案グループ名】 弘明寺リビングラボ	
事前質問	回答欄
朝比奈委員	
① 開設の時間帯や頻度、メンバーが常駐するのかなどカフェの日常的な運営とその体制を教えてください。	弘明寺リビングラボ運営委員会にて施設使用規約を制定し、それに従って整備対象施設の管理運営を行います。施設の管理責任者（オーナー及び代理人）は、解錠及び施錠を行い、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の徹底及び安全確保に務めることで、誰もが気持ち良く安心して施設を利用できる様努めます。 なお、子ども朝ごはん食堂やカフェは、食品衛生責任者（カフェのマスター）を中心に1日マスターを含めてサポーターが主体となって営業し、必要に応じて学生アルバイトを雇うことも考えています。
② カフェの運営以外にもイベント開催、地域の他団体との協力関係づくりなど活動内容は多岐にわたります。組織として事業全体をどう役割分担して進めるのか、また組織内の話し合いや意思統一をどう図っていこうと考えていますか。	弘明寺リビングラボの組織運営は、会則（令和5年9月1日発効）に従って行います。会員（年会費等は別途制定）は、弘明寺リビングラボ主催のイベントとは別に、独自に企画したセミナーや各種教室、展示即売会等を開催するために施設を有償（例えば1,200円/時）で利用することが可能です（予約制）。 運営委員会（代表、副代表、会計、総務、監事の役員並びに4名の顧問を含め、令和6年1月1日現在16名）を最高決定機関とし、毎月1回開催します。また一般会員にはURLやSNSを通じて情報発信し、弘明寺リビングラボ会則に従って、年度終了後3ヶ月以内に会員総会（臨時総会を除く）を

	<p>開催します。</p> <p>弘明寺リビングラボの組織につきましては、添付資料の4をご参照ください。</p>
<p>③ 事業の収支計画を知りたいです。開設当初の見込みと活動安定後では異なると思いますのでその点をふまえてください。</p>	<p>令和5年度事業計画（予算）を策定し、月次管理を行います。収入は、カフェの売上の他、イベント収入や物販、棚貸しを含むレンタル料、さらに個別サービスに対する会費等を、支出は、家賃をはじめ光熱費、材料費等を想定しています。</p> <p>施設における活動による事業収入及び収支（月次ベース）につきましては、添付資料の2と3をご参照ください。</p>
植松委員	
<p>① 健康に関する基礎データは、最もプライベートなものに属しますので、余程信頼のおける関係にならないと渡してもらうことは難しいと思います。となりますと、最初の活動としてすることは、日中のカフェと、子ども朝ごはん食堂、でしょうか。こちらが軌道に乗ってきたら、常連さんの中に、健康相談をする人や、健康サポートプログラムを活用したいという人も出て来るかもしれません。そのためにも、誰が調理をして、どこから食材を入手して、どのような分担でやり繰りしていくか、という点が喫緊の課題になるかと思いますが、その辺りの見通しを教えてください。</p>	<p>会員登録は、個人情報保護法及びデータへのアクセス権を含む取扱規定に従って適切に行います。差し当たってデータの2次利用はせず、「個人情報個人に帰属する」との基本理念に基づいて各種サービスを提供します。</p> <p>子ども朝ごはん食堂は、子育て支援プロジェクトとして発足予定の「GLL (Gumyouji Living Lab) キッズクラブ」の登録メンバー（食物アレルギーのリスクを考慮）に限定し、管理栄養士による監督指導の下、有償（例えば200円/日 x 5回/週）で朝食を提供します。カフェと同様、調理はカフェのマスター及びサポーターが行い、食材は主に近隣の協力店舗（中村青果店や藤方豆腐店等）にて調達することで連携強化と合わせて費用の低減を図る予定です。</p> <p>健康サポートは、会員登録の際に問診表に必要事項を記入頂き、個々の事情に応じてプログラムを作成した上で、デジタルとアナログのハイブリッドサービスを提供します。</p>
<p>② 運営委員会のメンバー以外に、サポーターやボランティアを確保する方策を</p>	<p>運営委員会メンバーからの紹介をはじめ、料理教室やジャズライブ等、定期イベント</p>



<p>教えてください。</p>	<p>への参加を機に自らの意思でサポーター登録（現在約 30 人、目標 100 人）をして頂きます。その上で、サポーターは、スタッフとしてのみならず、自ら企画提案することで1つ上のプロジェクトリーダーとして個別の活動を推進して頂くことを想定しています。</p> <p>組織運営につきましては、添付資料の 4 をご参照ください。</p>
<p>川原委員</p>	
<p>① カフェの運営と、データをもとに保健指導をするサービスがどう関係づけられるのかイメージできませんでした。個人データを取得するほどの信頼関係をどう構築するのか、これまでの説明、現地視察でもイメージできなかつたので、2次コンテストでの詳しい説明を希望します。</p>	<p>ヘルスケアカフェは、地域の住民同士が気軽に集い、一緒に健康の維持増進のためのイベントに参加する等、触れ合いを通じて「生き甲斐づくり」「仲間づくり」の輪を広げるための「通いの場」（謂わば、まちに開かれたリビングルームの様な場所）として運営します。</p> <p>また、ヘルスケアカフェは、弘明寺リビングラボの活動拠点であると共に地域住民に対する情報発信基地としての役割を担います。子育て世代から健康医療に関心の高いシニアまで、地域住民の多様なニーズにきめ細やかに応えていくためには、その前提となる個人情報が必要です。</p> <p>子育て支援サービスや見守りサービスを希望される方には、会員登録と合わせてデータの収集、分析、活用に関する「同意書」に署名して頂きます。</p>
<p>② 具体的な一週間の運営スケジュールと担当者など、運営のイメージを知りたいです。これまでの活動経験から等想定している利用者のニーズは掴んでいるのかも教えてください。</p>	<p>施設の運営につきましては、朝比奈委員の質問①への回答並びに添付資料の「1. 週間スケジュール表（例）」をご参照ください。なお、利用者のニーズを把握するために当事者へのインタビューやヒアリングを行っています。</p> <p>近隣の小学校の先生（校長、副校長、栄養教諭、養護教諭、クラス担任）にお会いして、朝食を食べてはいるものの、シリアル</p>

	<p>や菓子パンで済まず子どもたちが多くと伺い、「食育」を子育て支援プログラムの柱に位置づけました。また、商店街や周辺の協力店舗からのヒアリングを通じて、シニアは特に健康医療に対する関心が高いことを確認し、「フレイル予防」（添付資料 5 参照）に的を絞った取り組みを行おうと考えた次第です。</p>
<p>③ 1次コンテスト後の活動のうち、各所にヒアリングに行っていますが、これは主たるメンバーが参加しているのでしょうか。メンバーが同じ体験をすることは重要だと思いますので教えてください。一方、カフェ運営についての準備や視察がないので、どのように準備を進めてきたのか、知りたいです。</p>	<p>運営委員会のメンバーとは、会則に従い毎月運営委員会を開催すると共に、日々メールや SNS を駆使しつつ必要に応じて直接会って情報交換し、情報の共有化を図っています。学校訪問、商店街や周辺の店舗並びに近隣住民へのヒアリングは、地元在住の運営委員会メンバーで手分けして行いました。</p> <p>また、現地視察の際にお越し頂いたアントレ・ミュージックサロン&amp;カフェの2階（場合によって3階も）をお借りしてヘルスケアカフェを開業する運びとなったことから、施設の管理を含めてアントレ・ミュージックサロン&amp;カフェと緊密に連携しながら効率的且つ合理的な運営を目指します。</p> <p>整備対象施設は、昨年 11 月末まで事務所として使用されていたため、室内を見学出来たのは退去後の 12 月に入ってからでした。しかしながら、それまでもヘルスケアカフェの開業を前提に物件を探していたので、2階という制約はあるものの、活動内容そのものに大きな変更はございません。むしろ、アントレ・ミュージックサロン&amp;カフェとの連携強化によって活動の幅が広がり、集客につながると大いに期待しています。カフェの運営については、これまでの調査検討に加え、オーナーから直接ノウハウを伝授頂くことも可能です。オ</p>

	<p>オーナーには、2度のジャズライブの開催のみならず、弘明寺リビングラボ運営委員会の顧問として直接的また間接的に様々なご支援ご協力を頂いております。</p> <p>なお、整備対象施設の賃貸契約につきましては、2次コンテスト終了後に行うことで既にオーナーと合意しています。</p>
後藤委員	
① 活動の核は何でしょうか。	<p>「ヘルスケアを基礎としたまちづくり」(HBT: Healthcare-Based Town)を実現するためには、「病気になったら医者に行けばよい」という考えから脱却して「自分の身体は自分で守る」という意識改革を行い、行動変容につなげることが重要です。</p> <p>そのための活動の核となるのは、「医食同源」という基本コンセプトが示す様に、まずは子どもからお年寄りまでそれぞれに適した「健康的な食生活」の実現であり、「健康寿命の延伸」です。</p>
② 日々の活動について伺います。何名くらいで、どのようなメンバーで行われる予定でしょうか。	<p>施設の運営につきましては、朝比奈委員の質問①への回答並びに添付資料1の「週間スケジュール表(例)」をご参照ください。</p> <p>子ども朝ごはん食堂はスタッフ3人、カフェでは飲み物やデザートを提供するだけなので、客数にもよりますが、1~2人で十分賄えると考えています。</p>
杉崎委員	
① 整備後は「会員制」による施設利用と書かれていますが、会員の利用に限定することが想定されているのでしょうか。	<p>ヘルスケアカフェは、「まちに開かれたリビングルーム」として誰でも気軽に利用していただける様な空間にしたいと考えています。</p> <p>一方、「子ども朝ごはん食堂」や「見守りサービス」の利用については、会員登録を前提にそれぞれのニーズに合ったきめ細かいサービスを提供します。</p>
② 2階に人(高齢者も含む)を引き付ける工夫は考えているのでしょうか。	<p>急な階段を登らざるを得ず、残念ながらバリアフリー化は難しいです。比較的若くて</p>

	元氣な高齢者を対象にフレイル防止のための活動（例えば、講師を招いて「人生 100 年時代の栄養学セミナー」や料理研究会等）を行います。
肥後委員	
① 開店後の具体的な運営計画を教えてください。家賃・高熱等の費用は運営によって賄えますか。	家賃や光熱費といった経費(約 20 万円/月)は、ヘルスケアカフェの他、レンタル料(例えば 1,200 円/時)や各種イベント開催による収入で賄える様にしたいと考えています。 詳しくは添付資料の 2 と 3 をご参照ください。
松村委員	
① ヘルスケアカフェ営業にあたり、壁に珪藻土を使うこと以外で、空間デザイン上にこだわりたい点や施工上の工夫などはありますか。	珪藻土の壁を含めて小さな子供からお年寄りまで誰もが安心して集える様な設計を心がけたいと思います。 些かコストがかかりますが、オーナーとよく相談しながら、上がり框のある床(建築当初は事務所だったので床は後付け)を剥がして床から天井まで十分な高さ(240cm)を確保すると共にトイレ入口の段差を解消したいと考えています。 また、部屋の仕切り(収納)を取り払い、不要なバスルームを撤去することで限られた空間を出来るだけ有効利用出来るようにすると共に、カウンターキッチンから店内全体が見渡せる様、レイアウトを工夫したいと思います。
② 整備後にカフェの運営を引き受ける予定の人は、何人いますか。	食品衛生責任者 1 名の他、運営委員会メンバーやサポーター(交代要員を含めて最低 5 人は確保)、必要に応じて学生アルバイトを雇うことを考えています。
山田委員	
① 維持管理運営について、「カフェの運営」「イベント開催」「施設の時間貸し」「棚貸し」が「安定した収入源」になる根拠を、家賃 10 万円を賄える収支計画	毎月の収入は、カフェの売上を 10~20 万円(7 時間/日 x 20 日/月稼働を前提にコーヒー、紅茶等のソフトドリンク及び手作りデザートを提供することで客単価 500 円 x

<p>と共に教えてください。(例えばカフェは、週に何日/何時間営業し/何を/一日何食売り上げる見込みで、それに対する仕入れ/調理担当スタッフの確保等。)</p>	<p>10～20 食/日) とした上で、子ども朝ごはん食堂やイベント、さらに施設のレンタル料や棚貸し等、差し当たって毎月 50 万円の売り上げを見込んでいます。安定して施設を運営するためには、この程度の売り上げが必要だと考えています。</p> <p>詳しくは、添付資料の 2 と 3 をご参照ください。</p> <p>また、仕入れ/調理担当スタッフについては、植松委員の質問①及び後藤委員の質問②に対する回答をご参照ください。</p>
<p>② 施設の活用・活動内容で具体的に示されている 1～4 と、維持管理運営で出てくる「カフェの運営」「イベント開催」「施設の時間貸し」「棚貸し」のつながりを明確に示してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「主観的な健康感」を高めるための活動は、ヘルスケアカフェでの活動の中核を成すものであり、参加者がカフェでの交流やイベントへの参加を通じて「自分の身体は自分で守る」との意識を高め行動変容につなげることを目指します。</li> <li>2. 健康サポートプログラムの提供（デジタルとアナログのハイブリッドサービス）は、デジタルデバイスを使ってデータを収集分析し、ヘルスケアカフェで定期的に関催するセミナーや個別相談で保健指導を行うことを考えています。</li> <li>3. 食育をはじめ子育て支援のための各種プログラム（語部によるデジタル紙芝居やものづくり教室等）の提供もヘルスケアカフェの大事な役割です。</li> <li>4. フレイル予防・見守りサービス（デジタルヘルス）は、その手法（セミナーや個別相談）に於いて 2. と共通する点が多々あります。フレイル予防は、弘明寺リビングラボの根幹を成す活動であり、健康寿命の延伸を図るための重要な取り組みです。詳しくは、添付資料の 5 をご参照ください。</li> </ol>

	<p>以上が弘明寺リビングラボが整備対象施設を使って自ら行う活動です。</p> <p>一方、「施設の時間貸し」や「棚貸し」は、収入を得るための手段であり、何を行うかについて弘明寺リビングラボが直接関与することはありません。</p>
③ まち普請の助成費用だけでは足りない部分に関して、資金調達方法の計画があれば教えてください。	弘明寺リビングラボを一般社団法人化することで出資を募り、資本金及び借入金で不足分を補填します。
④ 常設の場を持つに伴い、常時滞在するスタッフが必要になると思いますが、人員確保の目途は立っていますか。	施設の管理責任（オーナー）や食品衛生責任者（カフェのマスター）が日々のスケジュール管理を行い、その時々作業量に応じてスタッフを確保します。

# 1. 週間スケジュール表 (例)

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00~	
月	←→			←→									会員の交流の場として活用
火	←→			←→									
水	←→			←→									
木	←→			←→									
金	←→			←→									
土				←→									
日				←→									
	子ども朝ごはん食堂			ヘルスケアカフェ									
	子ども朝ごはん食堂			ヘルスケアカフェ									
	子ども朝ごはん食堂			レンタルカフェ (1日マスター)									
	子ども朝ごはん食堂			ヘルスケアカフェ									
	子ども朝ごはん食堂			ヘルスケアカフェ									
				セミナーやイベントの開催									
				レンタルスペースとして会員に貸出し									

## 2. 事業収入（月次ベース）

	収入	原価	粗利	原価率
カフェ	200	60	140	30%
子ども食堂	80	72	8	90%
イベント	80	60	20	75%
セミナー	20	10	10	50%
レンタルスペース	20	3	17	15%
棚貸し	10	0	10	0%
物販	10	5	5	50%
サービス	50	35	15	70%
会費	20	2	18	10%
雑収入	10	0	10	0%
合計	500	247	253	49%

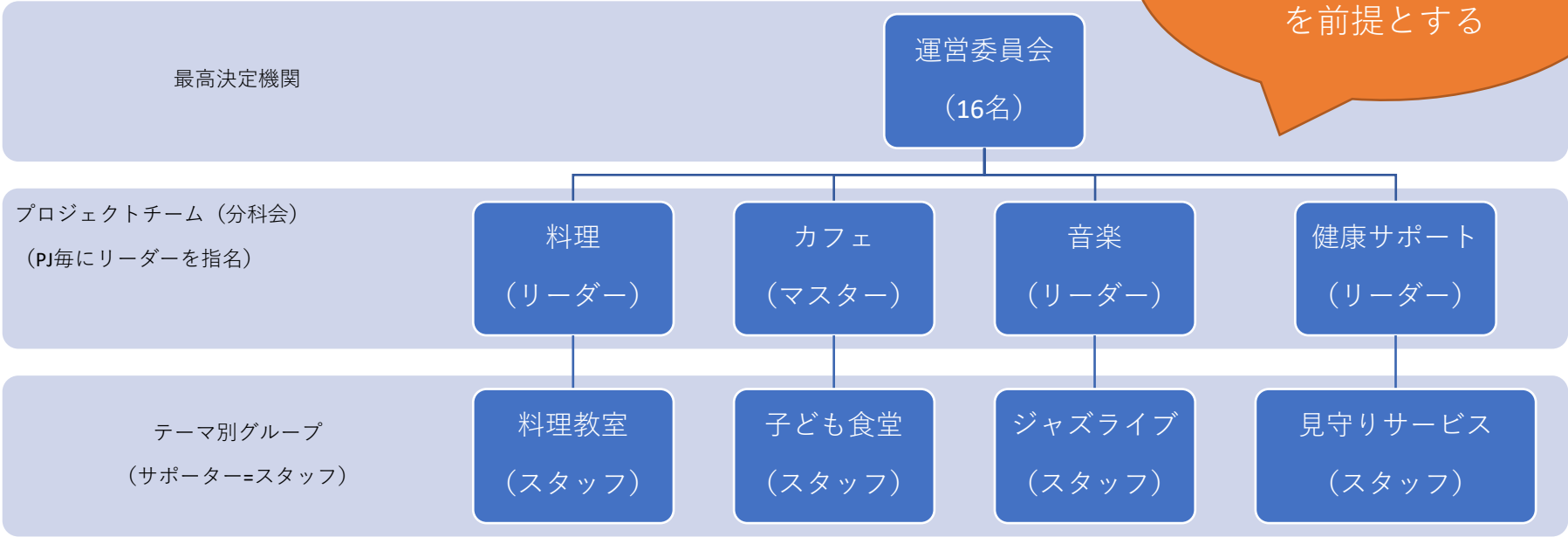


### 3. 収支計算（月次ベース）

	(千円)	備考
事業収入（粗利）	253	
固定費		
家賃	100	契約前につき仮設定
人件費	100	時給1,200円で4時間/日、4日/週
変動費		
電気ガス水道	30	
通信費、事務費	10	Wi-Fi、
雑費	10	
合計	3	

# 4. 組織図

カフェの利用は自由  
イベントへの参加は  
原則として会員登録  
を前提とする



# 5. フレイル予防のための取り組み

	活動内容	栄養	身体活動	社会参加
料理教室	「医食同源」をコンセプトに健康に良い料理を作ってみんなと一緒に食べる。	○		○
音楽会	「音楽は心のくすり」をコンセプトにサロンコンサートを開催			○
運動	ストレッチをして散策、清掃活動 etc.		○	○
ゲーム	子どもたちと一緒にプレイすることで脳トレ		○	○
茶話会	テーマを決めてみんなでお喋り			○
勉強会	地域の歴史や文化、語学、プログラミング etc.			○
映画鑑賞	好きな映画を選んでみんなと一緒に鑑賞			○

事業創出

子育て支援	シニアによるベビーシッターサービス（横浜子育てサポートシステムの活用）
	子ども朝ごはん食堂（シェアハウス、B&B事業等と合わせて検討）
見守り	アナログとデジタルを融合したハイブリッドサービス

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第2次提案書

注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。

注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	エダキン ユメカナ キャラバン えだきん×夢叶きやらばん
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	横浜市都筑区荏田南5丁目
提案名 (25字以内)	リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容※1を工夫した点※2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>1 青空テラス (講座や屋台食堂の開催場所)</p> <p>現在パリジェヌ (パン屋) の店先にある古いテラスを、解体・新設しより多くの地域住民が気軽に寛げる空間にする。席数を増やし収容人数を増やすことで雨でもくつろいだり教室が開催できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウッドデッキ：壊れて危険なテラスを解体・新設</li> <li>・テーブルと椅子：造り付けのテーブルと椅子</li> <li>・簡易手洗い場の設置</li> <li>・トイレの整備</li> </ul> <p>2 いつでもステージ (発表の場)</p> <p>テラスの一部をステージにして、挑戦へのハードルを下げ夢を応援！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明設備、音響設備用コンセント、スクリーン設置</li> </ul> <p>3 リアルとバーチャルを繋ぐシャッター</p> <p>シャッターにバーチャル空間の入口となるQRコードを描く。</p>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第1次提案書より具体的に記入してください	<p>1 青空テラス</p> <p>自由に利用することができる、青空テラスにすることで、閉ざされた空間としてではなく、開けっ広げで誰でも集える場として開放し、誰もが気軽に立ち寄れる場にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋台食堂を開催し、地域での個食孤独孤立の低減へ向け、地域で食を支援する。</li> <li>・講座 (スマホ講座など) やワークショップを開催することにより、地域住民が通りすがりでも聞くことができるようにする。</li> </ul> <p>それにより参加への敷居を下げ、交流 (ネットワーク作り)、学びや出会いのきっかけとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント企画 運営メンバーが近隣の活発な地域活動を行っている</li> </ul>

	<p>人々と積極的につながり、不登校児親子向けの居場所、多世代フリースクール（子どもからお年寄りまで）などを実施する。（詳細は別紙）</p> <p><b>2 いつでもステージ</b>（収納式舞台設備） 地域住民やその所属しているグループが気軽に発表できる場。音響、照明、映像設備を備え、カラオケ、コーラス、楽器、ダンスなど、いつでも誰でも気軽に発表できる場にしたい。</p> <p><b>3 リアルとバーチャルを繋ぐシャッター</b> アプリ「バーチャル空間の商店街」を開発し、そこでお仕事体験や学習支援、ネットでの買い物体験、ステージ発表など「疑似体験」が気軽にできる。さらに、そこで得た地域通貨はリアルのえだきん商店街で使用できるようにすることで、相乗効果を生み出す。結果的に商店街の活性化にもつながる。</p>
<p>提案の背景 （なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください） ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>引きこもり気味の小中高生から高齢者など、外へのつながりを持ちたくてもハードルを感じる人がいる。人前で何かをいきなりやるにはハードルが高い。一方、バーチャルは、何度でも失敗でき挑戦できるので、ハードルが低い。でも、バーチャルだけではまだ生きていけない。そこで、バーチャルとリアルをつなぐ中継点として「安心」して、近隣の小中高校生からシニアまで、集い、学べて体験できる「<b>中間支援的な空間</b>」を作る。</p> <p>ここは、普段から買い物や通勤などで人が通り、老若男女が利用し、挨拶を交わす場所になっている。また、子どもが使い終わった自転車等おもちゃが自然と集まり、それを使いたい親子が自然と集まってくる。ここで自転車に乗れるようになった子どもは数知れず！放課後には、小中学生のたまり場となり、課題やゲーム、談笑を楽しんでいる。地域の子どもからシニアまで必要とされているこの場所に、リアルとバーチャルを双方向から繋ぐ仕掛けをつくる。</p>
<p>整備プロセス （スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源<sup>注4</sup>、費用削減の工夫に触れて説明してください）</p>	<p>商店街の利用者からキックオフメンバーを募集し、得意分野に分かれ、整備時の設計、資材搬入、連絡係などそれぞれ協力体制を作る。</p> <p><b>【近隣住民、学童、他団体からのボランティア】</b> 商店街の各商店と地域住民。実行部隊として、学童や横浜市一時預かり事業の利用親子。他団体から、整備に関わる事例や情報、企業から、整備資金の支援を受ける。協働先団体に、建築設計・まちづくりの専門家がいるため、整備を進める中で、随時助言・支援を受けることができる。</p> <p>・地域からの寄付や、市の補助金・助成金などを活用して実施する。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 （維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源<sup>注4</sup>に触れて説明してください）</p>	<p><b>1 屋台食堂</b> 月1回屋台食堂を開催し、一食300円で提供（シニアの単身世帯、ひとり親家庭、小中学生は無料）。フードバンクや食材の寄付を利用して実施する。</p> <p><b>2 スマホ講座</b> 週2回、主に高齢者を対象としたスマホ講座を開催し、1回500円でスマホの利用方法、便利なアプリの使い方などについてアドバイスを行う。</p> <p><b>3 ワークショップ・イベント企画</b> 近隣の地域教育活動を行っている人を招いて、イベントを企画開催</p>

	<p>する。提案メンバーを軸に各活動でボランティアを都度募集して実施。</p> <p>4 いつでもステージの活用 えだきんアイドルEDKや付近のダンス教室などが、ステージを活用してイベントを開催できるようにする。(2～3か月に1回程度) えだきんアイドルEDKのグッズ販売などを通して収入源とする。</p>
--	---

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

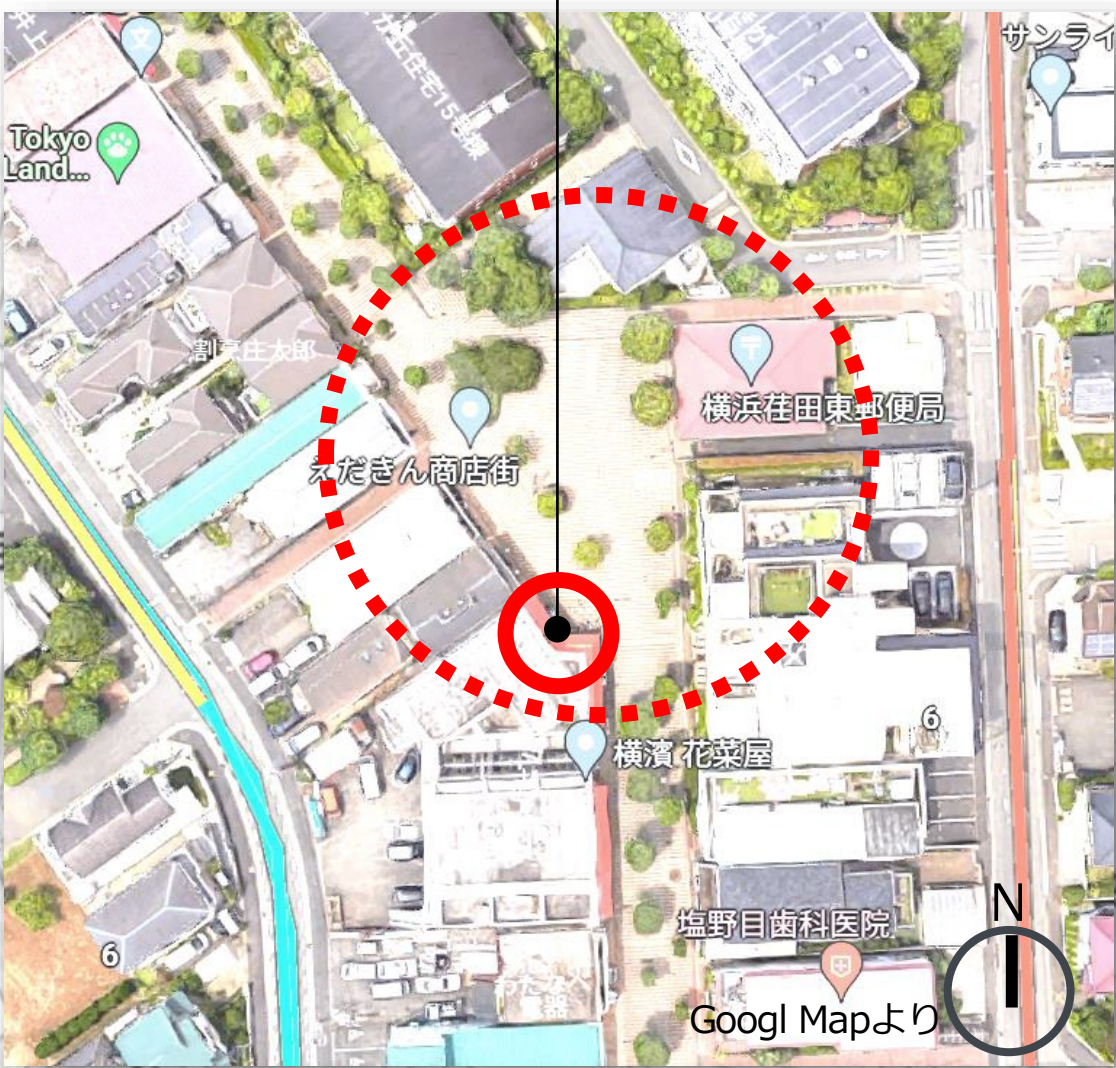
<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料(任意様式)に記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モヤキラCAFEなど現地視察会参加</li> <li>・早食いイベント、屋台食堂(毎月1回)開催</li> </ul>
<p>関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣住民への周知、説明、アンケート実施(今後も継続予定)</li> <li>・土地所有者に10月中に挨拶&amp;計画説明済(ぜひ、地域を盛り上げてくださいとのことでした)</li> <li>・自治会長への挨拶(11月)</li> <li>・向かいのマンション管理組合へ挨拶(10月、11月)</li> <li>・えだきん商店街には何度か説明済(商店会合、商店街LINE、直接)</li> </ul>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>私たちの団体の強みは、すでに多世代交流の取組を3年間ここで行っている、というところです。</p> <p>地域の皆さんと協力して、より居心地の良い空間(場)を作り、バーチャルと繋ぎ、誰もが気軽に学び・体験できる場所と機会を提供していきたいです。</p> <p>今後はSDGsの取組として、食品ロスや廃棄課題を抱えた、商店街各店や近隣農家の「地域で食品ロスを循環していく地産地消」や「廃棄課題を解決するエコステーション」を協働開発、運営し継続できる仕組みを作りたいとも考えています。</p>
<p>目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テラスを整備することにより、居心地の良い空間を創出し、地域住民同士の交友を深められるようにする。このテラスを拠点として様々な世代、様々な立場の人が集い合い、講座やステージイベントなどを通して自然につながりが生まれるえだきん商店街にしたい。</li> <li>・地域食堂を活用した、子どもたちや高齢者を含む地域住民同士の交友の促進、いつでもステージという身近な発表の場により挑戦を応援すること、バーチャル商店街とリアルを繋ぐことで、引きこもり気味の人まで巻き込んだコミュニティを形成することなどを通して、誰もがつながりを持ち孤立しないで自分の居場所を持てる地域を目指す。</li> </ul>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

# ●えだきん×夢叶キャラバン 位置図 (2次資料)

# ●パリジェンヌ前テラス

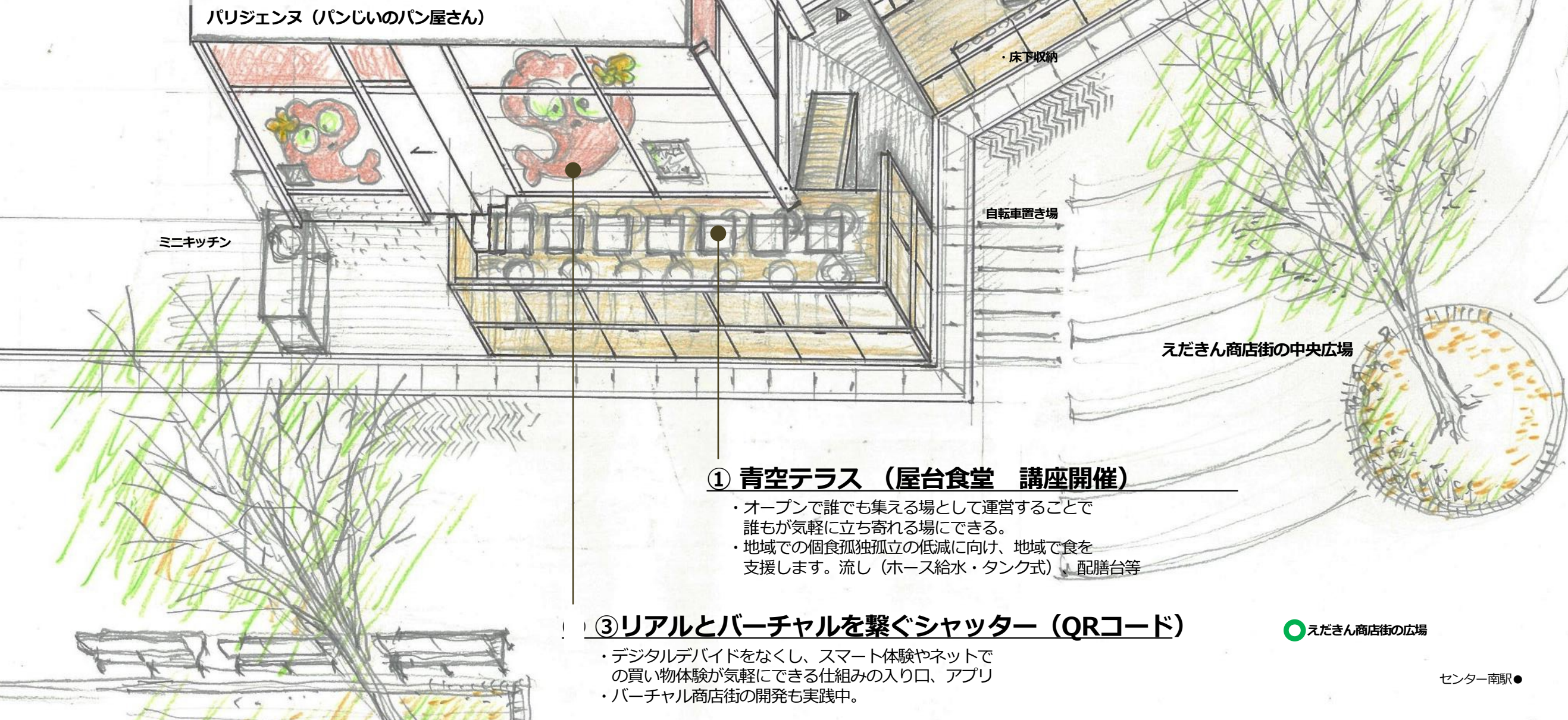






# ●えだきん×夢叶キャラバン 完成予想図

・ひきこもり気味な小中高生から高齢者など、外へつながりを持ちたくてもハードルを感じる人がいる。人前で何かをいきなりやるにはハードルが高い。一方、バーチャルは何度でも失敗でき挑戦できるので、ハードルが低い。でも、バーチャルだけではまだまだ生きていけない。そこで、バーチャルとリアルをつなぐ中継点として「安心」して、学べて体験できる「中間支援的な空間」をつくる。そのために必要なのが「えだきんメタワールド」。お仕事体験や学習支援、ステージ発表等を「疑似体験」できる。そこで得た通貨はリアルなえだきん商店街で使用できることで、相乗効果を生み出す。結果的に商店街の活性化にもつながる。シャッターにはQRコードを描くことにより、バーチャルな空間に日常的に参加できるようにする。



## ②いつでもステージ (発表の場)

- ・いつでも、だれでも気軽に発表できるステージ
- 音響設備・照明設備・映像設備等
- ・ステージ下に収納を設ける (H500程度)

## ① 青空テラス (屋台食堂 講座開催)

- ・オープンで誰でも集える場として運営することで誰もが気軽に立ち寄れる場ができる。
- ・地域での個食孤独孤立の低減に向け、地域で食を支援します。流し (ホース給水・タンク式) 配膳台等

## ③リアルとバーチャルを繋ぐシャッター (QRコード)

- ・デジタルデバイドをなくし、スマート体験やネットでの買い物体験が気軽にできる仕組みの入り口、アプリ
- ・バーチャル商店街の開発も実践中。

●えだきん商店街の広場

センター南駅●

## ヨコハマ市民まち普請事業

### 想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 （費用又は労力の負担等）
ウッドデッキ・ステージ工事	人工木使用 27.9㎡	1式		3,650,000	金額を抑えるため、解体作業は地域住民の手で実施する。 20人・1日
テーブルと椅子材料費	1人掛け椅子・机7組 長ベンチ	1式		700,000	制作と設置を住民参加で実施
トイレの整備	内装・設備 資材共	1式		450,000	
電気工事		1式		250,000	
シャッターへのQRコード 塗装費	バーチャル商店街作成後、 参加店舗に塗装を行う	1式		100,000	材料費のみ 住民参加で作成
照明・音響設備		1式		200,000	
簡易手洗い用流し	タンク式 使用時のみ給水	1台		150,000	
合 計				5,500,000	

### 1次コンテスト以降の活動内容

8月22日	(火)	モヤキラカフェ見学
8月26日	(土)	地域食堂
9月23日	(土)	まち普請懇談会
9月29日	(金)	山盛りポテト早食いイベント+屋台食堂（63食提供） アンケート実施 （カレーがおいしかった。温かいものが嬉しかった。）
10月3日	(火)	定例打合せ
10月10日	(火)	パリジェンヌ現場確認（採寸）
10月17日	(火)	定例打合せ
10月24日	(火)	定例打合せ
10月25日	(水)	地域づくり講座出席
10月26日	(木)	ミエル見学・フードバンク打合せ
10月27日	(金)	くじ付きパンイベント+屋台食堂（65食提供） アンケート実施 （平日夜が便利。いつも一人で食べているので賑やかで良かった。）
11月7日	(火)	施工会社と現場打合せ  定例打合せ
11月14日	(火)	定例打合せ
11月17日	(金)	現場にて打合せ
11月20日	(月)	霧が丘プラットホーム見学
11月21日	(火)	定例打合せ
11月22日	(水)	地域づくり講座出席
11月24日	(金)	くじ付きパンイベント  屋台食堂（社会福祉協議会の方がイベントに参加：2名）

## その他資料

### 整備後の利用計画

#### 1 スマホ講座

引き続き週2回開催予定

#### 2 屋台食堂

引き続き毎月1回開催予定

#### 3 ステージイベント

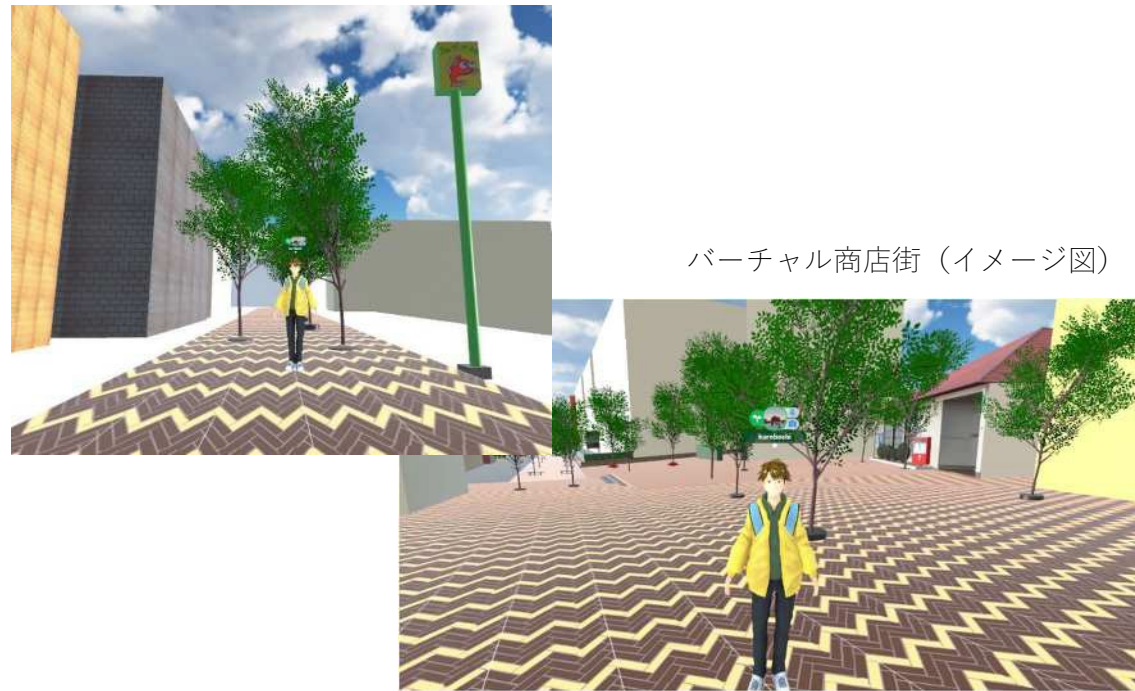
2～3か月に1回週末午後開催予定（カラオケ、ダンス発表など）

#### 4 青空テラスでの各種講座など

- ・ 随時、地域住民に開放し、交流の場とする。
- ・ 協力いただけるボランティア団体と調整を行いつつ、イベントを企画する。（地域寺子屋による学習支援、保護猫に関する情報周知と譲渡会、高齢者向け健康講座（マッサージ・体操など）、不登校の親向けの交流会など）

#### 5 バーチャル商店街による自宅に居ながらの体験

オンラインのバーチャル商店街の開発を進めつつ、参加いただける店舗との調整ができ次第、シャッターへのQRコードのペイントを行っていく。



### 将来的なイベントの計画

#### 1 不登校児親子向けの居場所

#### 2 多世代フリースクール

#### 3 乳幼児預かり施設「さんぼ」や学童とつながっての子供向け企画

#### 4 小中学生向け無料の寺子屋（学習支援）

#### 5 地域の農家さんにつながるの農業体験

#### 6 サクラスペイクリニックと共催で譲渡会や飼い主向けイベント

#### 7 高齢者向け 読書会、ハンドマッサージ、健康体操

## 2次コンテスト事前質問集

【提案名（グループ名）】 えだきん×夢叶きゃらばん	
事前質問	回答欄
朝比奈委員	
① 講座や屋台食堂などイベント以外の日常の管理について教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージ、青空テラスは、貸切のイベント時以外は、地域に解放。誰でも自由に使える。</li> <li>・当面の清掃やメンテナンスは、メンバーが週1程度分担して行う。</li> </ul>
② 事業の運営体制や役割分担を教えてください。また組織内での話し合いや意思統一をどのように図っていきますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの部門ごとに役割分担する 当面は、バーチャル部門、食堂部門、イベント部門、講座部門</li> <li>・当面は部門リーダーで月一報告相談会を実施し、地域活動への意思統一を図る。</li> </ul>
③ 事業の収支計画を知りたいです。開設当初の見込みと活動安定後では異なると思いますのでその点をふまえてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テラスやステージの貸切賃料や屋台食堂やイベントの参加費から材料費及び、メンテナンスや清掃で使用する消耗品の費用など捻出 〔詳細別紙〕</li> </ul>
植松委員	
① 完成の暁には、とても素敵な広場が出来上がりそうですが、近隣の皆さんとの連携について具体的に教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも好きな時に自己表現できる場なので、まずは周知に徹する</li> <li>・近隣小中学校や、地域のダンス教室などにお知らせする</li> <li>・ステージでの発表の場を作ったり、地域の方々の特技や趣味の披露の場としての利用を企画連携する</li> </ul>
② シャッターに描かれるQRコードの活用法について、具体的に教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーチャル空間への入り口を描くことで、店舗が閉店後もバーチャルへの動線を周知する目的がある</li> <li>・店舗や商店街、地域活動のPRやイベント情報などの発信にも活用できる</li> </ul>
川原委員	
なし	
後藤委員	
① パン屋さんのトイレを共用することは、パン屋さんの衛生面で問題があるように思いました。（視察時） それについては、どのようにお考えでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の構造上、扉を移設することが不可能であり、工事による衛生上の問題が発生することからトイレの整備今回は見送ります</li> </ul>

<p>② 屋台食堂を開催するときは、どこで調理をするのでしょうか？（それとも調理済みのものを提供するイメージでしょうか？）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージ脇の簡易コンロにより調理を行う</li> <li>・現在はパリジェンヌさんの厨房をお借りして調理を行っています</li> </ul>
<p>杉崎委員</p>	
<p>① 整備する際、整備箇所に置いてあるパン屋さんに関係する備品類（干してあるタオルなど）やこどものおもちゃ類の処理について教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不用品は処分する</li> <li>・備品についてはステージ下の収納庫等に収納する。</li> <li>・こどものおもちゃ類は現状の位置（テラス下）に保管し、一部の乗り物等については、遊びやすいように整理・保管する。</li> </ul>
<p>肥後委員</p>	
<p>1 えだきんメタワールドでの疑似体験・そこで得た通貨をリアルに商店街で使う仕組みについて、詳しく教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えばパン屋さんがやりたい人には、パン屋開店までのステップを学べる、また商品開発などをコラボでできる機会も設ける</li> <li>・疑似体験やイベントの手伝いなど参加でゴールドを貯めることでバーチャルとリアルそれぞれで利用できる</li> <li>・社会と繋がれる仕組みを多様に作る</li> </ul>
<p>2 日々の青空テラス、いつでもステージでの運営は、どのように考えていますか。管理はパリジェンヌさんがするのですか。（パン屋さんは、かなり多忙に見えました）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント等貸切利用はスケジュール管理をWEBで管理する</li> <li>・WEBができない人用にリアル講座を開催</li> </ul>
<p>松村委員</p>	
<p>1 バーチャル上のつながりは、どのように拡げていく予定ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季刊誌発行によりリアルとの繋がりも設けつつ周知</li> <li>・バーチャルもリアルも同様にイベントを通してさまざまな人との関わりや繋がり機会を設ける</li> </ul>
<p>2 整備後の活動に伴う収支は、どのように考えていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にバーチャルと季刊誌からの広告費でリアルの場の運営を支える</li> </ul>
<p>③ パン屋さんにとってこの整備は、どのような効果があると思われますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パン屋さんには、地域貢献の一環として、今回の整備に協力してもらっていますが、今後賑わいが増すことになり、お客様及び売上の増加を見込めると思います。</li> </ul>
<p>山田委員</p>	
<p>1 店舗内の動線と外からの一般人の動線が重なるトイレ付近について、衛生面の管理は行き届いていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後藤委員①の質問に同じ</li> <li>・当面は、近隣の商店街店舗に協力していただきトイレをお借りする予定</li> <li>・今後の課題として解決策を考えています</li> </ul>

【別紙】収支計画

〔収入〕

項目	内容	月			年
		単価	数量	金額	金額
屋台食堂	食事代	300	50	15,000	180,000
イベント※1	参加費				調整中
講座代	スマホ講座	500	20	10,000	120,000
助成金※2					80,000
合計					380,000

※1 イベント：マルシェやバザー、ステージ発表等（今後金額等を決定予定）

※2 助成金等：こども食堂等の助成金を申請中

〔支出〕

項目	内容	月			年
		単価	数量	金額	金額
屋台食堂	食材費等	200	50	10,000	120,000
〃	光熱費代			2,000	24,000
運営費※3	場所賃料			10,000	120,000
雑費	消耗品※4			3,000	36,000
合計					300,000

※3 運営費：未定。今後の調整により金額及び支払い回数を決定予定。

※4 消耗品：チラシ印刷、ポスター貼り等に要する費用

余剰金は、積み立てておき、当初は必要な設備の賃借費及び購入に充てる。  
活動が軌道に乗り、必要な設備が揃ったあとは、ボランティアへの人件費とする。

## 6. (1) ヨコハマ市民まち普請事業整備助成対象一覧（年別）

整備年度	番号	整備提案名	提案グループ名	区	整備内容
H18	1	バス停前傾斜地の緑化事業	舞岡第二ゆめプロジェクト推進会	戸塚	斜面緑化
	2	花＊花に 楽々水やり	花＊花 倶楽部	都筑	雨水利用タンク
	3	東海道保土ヶ谷宿 松並木・一里塚等再創造プロジェクト	保土ヶ谷宿四百倶楽部＋東海道保土ヶ谷宿松並木プロムナード実行委員会	保土ヶ谷	植樹、サイン
	4	岸谷公園を中心とした、まちの防災・防犯拠点の再整備	岸谷第二自治会	鶴見	防災放送施設
	5	横浜寿町ホテルビレッジ街化事業	横浜寿町ホテルビレッジ街化事業実行委員会	中	植栽、ベンチ、特大将棋台
	6	こどもの遊び場、ピオトープ作り	永田町上第三町内会	南	ピオトープ
	7	高田東小学校における雨水貯留・浸透施設の設置とピオトープ整備による流域学習推進事業(総合治水・水循環回復・環境保全・回復の総合的学習)	高田東小学校の雨水利用をすすめる会	港北	ピオトープ、雨水利用施設
H19	1	登り窯付属施設及び周辺環境の整備	登り窯と永田の自然を守る会	南	斜面緑地、ピオトープ、水路
	2	仮称)日ノ出町・初黄地区ライトアップ地域浄化構想	美しい環境・市民文化づくりの会(略:B-UPの会)	中	ライトアップ、シャッター描画
	3	不便な盆地も雨水・湧き水で大変身!	西戸部二丁目第一自治会わくわく倶楽部	西	雨水タンク、地下貯水槽
	4	車椅子使用者の為のリフト設置と相談ルームの増設	在宅支援サービス さわやか港南	港南	相談ルーム、リフト
	5	地域のコミュニケーション基地「うさきちハウス」づくり	「うさきちハウス」づくり実行委員会	神奈川	活動小屋
H20	1	地元企業・地主と市民による安全・安心のみちづくり	新羽駅周辺街づくり協議会	港北	道路への描画
	2	荒磯川源流の日本庭園・清流復活	茅ヶ崎公園・緑道愛護会	都筑	井戸、日本庭園
	3	境川上流河川沿い道路に桜並木の名所づくり	境川沿いと鎌倉古道沿いに桜の名所づくり実行委員会	瀬谷	植樹・植栽
	4	地域に愛される浜マーケットを次世代に残していこう!	商店街活性化×若者の働く場創出プロジェクトチーム	磯子	休憩所、看板
H21	1	森に隣接した旭高校外周道路のコミュニティ空間化	よこはま里山研究所 川井緑地森づくりプロジェクト	旭	森林の管理、休憩所(バーコーラ)、道路への描画
	2	高島中央公園におけるファミリーガーデン計画	高島中央公園ガーデニングクラブ	西	園路、花壇
	3	農業体験を通して高齢者と地域住民が交流する場づくり	高齢者子ども等が農体験で交流する場づくり実行委員会	瀬谷	機材置き場、休憩所、井戸
	4	都筑民家園に市民に親しまれる本格的な「茶室」を整備	茶室を贈る有志の会＋茶室まち普請・活用推進委員会	都筑	茶室、露地
H22	1	西柴田店商店街の空き店舗を利用した地域活性化プラン	私たちのふるさと「西柴田地を愛する会」	金沢	コミュニティカフェ
	2	地域に根ざす技術を生かしたふるさと大道の風景をつくる	ふるさと大道の風景をつくる会	金沢	井戸設置
	3	鶴見川大曲、花と緑と水の広場づくり	駒岡連合町会大曲広場実行委員会	鶴見	植栽、看板、多目的グラウンド
	4	地域ぐるみで地域開放型コミュニティ・サロンをつくる	地域開放型サロンを豊岡につくる会	鶴見	コミュニティカフェ
	5	樹林と湧水を活かしたホテルの里山づくり	緑地保全地区を核にしたホテルの里山づくり実行委員会	瀬谷	水路、林
H23	1	本牧山頂公園里山あそびプロジェクト	本牧山頂公園和田山地区地域連絡会	中	倉庫、バーコーラ、雨水貯留施設
	2	美しが丘第六公園集会所建設整備計画	美しが丘西部自治会建設委員会役員会	青葉	集会所
	3	初黄・日ノ出町地区に集いの広場を! 階段広場をつくる	初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会チームひろば	中	広場
H24	1	長津田の樹木を利活用したアートワークプロジェクト	長津田駅北側まちづくり協議会	緑	ブロックレリーフ
	2	阿久和北部見守り合い拠点・大きな傘「みまもり広場」	阿久和北部見守り合いネットワーク実行委員会	瀬谷	見守り拠点(建物)
	3	新観光地域活性構想歴史と文化のある街・お三の宮通り	お三の宮通りまちづくり委員会	南	モニュメント、サイン、掲示板
	4	地域力醸成の拠点となるコミュニティサロンの整備	湘南八景自治会役員と湘南八景「お助けマン」	金沢	見守り拠点(内装)
H25	1	夢・街のナビゲート 大倉山コンシェルジュパーク	大倉山に地域交流拠点をつくる会	港北	交流拠点(内装)
	2	瀧乃川源流の湧! 悠! 防災井戸作り	瀧乃川保存を考える会	神奈川	池の再整備、井戸
	3	中川駅前中央遊歩道のルネッサンスプロジェクト	NPO法人ぐるっと緑道	都筑	花壇、井戸
H26	1	町の防災拠点づくり	松ヶ丘自治会	神奈川	防災倉庫(内装)
	2	女性の笑顔で人と人をつなぐ地域応援プロジェクト	ディアナ横濱	西	交流拠点
	3	戸塚に新しい親子の居場所「ひろばカフェ」をつくろう	特定非営利活動法人こまちぶらす	戸塚	子育て拠点
H27	1	カサコ 一丘の街の地域の軒下/世界の軒下ー	カサコプロジェクト実行委員	西	交流拠点
	2	美晴台内道路の愛称入り案内板と複合コミセン整備事業	美晴台自治会助け合いグループ	港南	サイン、掲示板
	3	矢向・江ヶ崎 歴史資料室の建設と世代間交流の場作り	矢向・江ヶ崎 歴史資料室を作る会	鶴見	交流拠点



H28	1	湧水を住民のいこいの場に！子どもたちに自然体験を！	下和泉湧水を守る会	泉	緑の再生、遊歩道、小川
	2	住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり	六浦東・まち交流ステーション委員会	金沢	地域交流拠点
	3	東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置	つづきつづ、はい！	都筑	案内板、掲示板、ポイントアート
H29	1	地域のインテリジェンス「ぶらっと 谷矢部」づくり	谷矢部池公園愛護会	戸塚	交流拠点
	2	太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション	熊野の森もろおかスタイル	港北	屋外交流拠点
	3	上星川の「ひと」「まち」「こと」のふれあい広場	FM上星川	保土ヶ谷	交流拠点
H30	1	#BuildingTogether太陽ローズハウス	荻子田太陽公園愛護会グループ	青葉	交流拠点
	2	「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備	美しが丘アクセス委員会遊歩道ワーキンググループ	青葉	階段アート
	3	中田のえんがわ「宮ノ前テラス」多世代交流スペース	宮ノマエストロ	泉	交流拠点
R1	1	歴史と環境をテーマに安心して楽しめる里海公園づくり	富岡並木ふなだまりgionbune公園愛護会	金沢	屋外交流拠点
	2	鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり まちのリビング	つみれプロジェクト実行委員会	鶴見	交流拠点
	3	世代を超えた集いの場にするための拠点づくり	おもしろいやり隊	南	交流拠点
R2	1	コミュニティカフェの新設	みんなが繋がる憩の家 icocca 作り隊	港南	交流拠点
	2	みんなの絵本のおうち	おはなしの風	泉	交流拠点
	3	カベを取り払ってみんなが自由になる「ひろば」づくり	菊名・錦が丘にみんなの“ひろば”をつくる会	港北	交流拠点
R3	1	車椅子でもOK！だれでも集える多目的交流スペース	ぐるーぶ・ちえのわ事業検討委員会	戸塚	交流拠点
	2	「水」と「火」のある地域のほっとステーション	Co-coya復活プロジェクト実行委員会	緑	交流拠点
	3	子安台みんなの家	子安台みんなの家をつくる会	神奈川	交流拠点
R4	1	地域で繋がり、楽しむ！多世代・多文化交流の新拠点！	まちとも霧が丘	緑	交流拠点
	2	八景市場ANNEXー自らづくり、つながる場所	食卓八景ーつながりのリビングをつくる会	金沢	交流拠点
	3	地域コミュニティのごきげんな居場所づくり	モヤキラCAFE 実行委員会	都筑	交流拠点
R5	1	松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト	てんこもりのわ	神奈川	交流拠点
	2	「食」をきっかけとしたシェア空間の立ち上げ	まちまど・洋光台シェアベース実行委員会	磯子	交流拠点
	3	鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る	町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト	港北	交流拠点

## メールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか？

市民が身近なまちづくりに取り組むときに役立つ制度や用語、地域のまちづくり活動の紹介、地域まちづくりに関するイベントや講座等に関するお知らせなどを提供する、無料のメールマガジンを読みませんか？ 配信申し込みは、下記の2次元コードからお願いします。



ヨコハマ人・まち

メルマガ案内

ヨコハマ人・まち

検索



## 地域まちづくり課 “公認” のFacebook

### 「ヨコハマ市民まち普請ひろば」

まち普請ひろば

検索

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね！」を宜しくお願いします。

(Facebookは協働事務局の横浜市住宅供給公社が運営しています)

身近なまちの課題を解決したい、あるいは魅力を高めたいと考えている方や、身近なまちの施設等の整備アイデアをお持ちの方は、年間を通じていつでも相談窓口を開設していますので、どうぞお気軽にご相談ください。

### 【相談・お問い合わせ先】

横浜市都市整備局地域まちづくり課

(横浜市中区本町6丁目50番地の10 市庁舎29階)

電話 045-671-2679 E-mail : [tb-seibiteian@city.yokohama.jp](mailto:tb-seibiteian@city.yokohama.jp)

## 明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

横浜市



あちこち・ドキドキ・ハマのまち

都市整備局

まち普請

検索

## 令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業 応援企業のみなさま



まち普請事業は、市民主体のまちづくりの支援を通じてSDGsの目標達成を目指す事業です。SDGs推進に精力的に取り組む以下の企業の皆様からの応援をいただいています。



石井造園株式会社



グランコーヨー株式会社



各企業の  
HP リンクは  
こちら  
(横浜市 HP)

